

それは予想をはるかに超えていた  
 田畑が、道路が、  
 そして街が、泥の海と化した  
 母なる円山川が  
 我々に与えた試練だった

泥水に覆われた豊岡市内 国土交通省撮影

も く じ

そのとき街は……………2  
 豊岡市 出石町 日高町  
 但東町 城崎町 竹野町  
 ドキュメント 23 号……………9  
 円山川水系に猛烈な雨……………12  
 但馬北部に発表された気象情報  
 円山川が過去最高の水位を記録  
 円山川とその水系  
 被害の状況……………16  
 主な被害の状況  
 管内のほぼ全域で甚大な被害  
 全国及び兵庫県内の被害状況  
 河川氾濫と相次ぐ破堤……………18  
 殺到する 119……………20  
 119 番の受信件数  
 拠点浸水……………22  
 出石郡分署に濁流が直撃  
 豊岡消防署が浸水  
 活動の概要……………24  
 豊岡消防署  
 出石郡分署  
 日高分署  
 城崎分署  
 竹野出張所  
 応援求む！……………34  
 応援隊の活動  
 応援消防局・本部等数  
 兵庫県下応援隊及び  
 緊急消防援助隊活動状況  
 兵庫県下応援消防局・本部一覧  
 緊急消防援助隊消防局・本部一覧  
 消防応援のしくみ  
 消防庁長官が被災現場の視察……………40  
 指揮者として……………41  
 消防年報 2004 活動の記録  
 資料編……………43

市町名等は、市町合併以前の名称  
 で記載しています。



ごあいさつ

消防長 菅村 和 弘

北但消防本部が市町合併に伴い豊岡市消防本部として新たに出発するにあたり、最初の報告書となる『119 2004 活動の記録』は、昨年 10 月に襲来し、未曾有

の災害をもたらした台風 23 号の検証記録集となりました。今回の台風による被害は、今まで語り継がれてきた昭和 34 年の伊勢湾台風を上回り、当本部管内だけでも死者 7 人、負傷者 49 人、家屋損壊は 4,300 棟を超える惨状となりました。また、目の当たりにした河川の氾濫、道路の損壊や山崩れ等に息をのみました。あらためてお亡くなりになりました方々に心からお悔やみを申し上げたいと存じます。

本誌は、猛威をふるった台風 23 号に向き合った消防本部（署・分署・出張所）の悲しくて悔しい貴重な記録を署員の体験談を交え編集いたしました。殺到する 119 の救援要請に応えることができなかった無念さ。刻々と押し寄せる深刻な被害の様相に、いよいよ 10 月 21 日午前 1 時 30 分、兵庫県下消防本部へ応援要請、午前 8 時 30 分には緊急消防援助隊の要請をする事態となった経緯など、緊迫する現場の様子を克明に追跡いたしました。

この不幸な経験を決して忘れず、活かす努力を日々積み重ねることが、災害に立ち向かう市民の方々への励ましのメッセージになるとともに、応援をいただいた多くの方々へのお礼となるのではないかと考えています。

末筆になりましたが、発行に当たりご協力をいただきました関係各位に感謝申し上げます。

# そのとき街は・・・



## 豊岡市

10月20日23時15分、豊岡市立野町の立野大橋付近で、円山川の堤防が破堤。市の東部地域一帯が泥の海と化した。

兵庫県消防防災航空隊撮影



市の西部地域も円山川堤防の欠損と内水の増水によりほぼ全域が浸水した。(豊岡市中陰付近)

産経新聞社提供



豊岡市上陰で救出される住民 堺市高石市消防組合撮影



冠水した駅通り 堺市高石市消防組合撮影



豊岡市昭和町付近 当本部撮影

豊岡市船町付近 濱本功さん提供



土砂崩れで倒壊した民家(豊岡市新堂) 当本部撮影



豊岡市江本付近 兵庫県消防防災航空隊撮影



救出される住民(豊岡市梶原) 朝日新聞提供



豊岡市高屋付近 当本部撮影



浸水した公立豊岡病院



救出される住民(豊岡市梶原) 神戸新聞社提供



豊岡北中学校に避難した住民 豊岡市提供

# 出石町



出石町鳥居では、出石川堤防が破堤し小坂地区が浸水した。  
国土交通省撮影



濁流により流された車両（出石町桐野）  
出石町提供



出石町鳥居 出石町提供



出石町鳥居 出石町提供



破堤により濁流が押し寄せた国道426号（出石町寺坂）  
出石町提供



崩落した国道426号（出石町寺坂）出石町提供



泥の海と化した小坂地区  
出石町提供



倒木被害も相次いだ  
（出石町中村）出石町提供



崩落した道路と転落した車両（出石町中村） 出石町提供



橋脚に溜まった流木  
（出石町鍛冶屋）  
当本部撮影

# 日高町



洪水の傷跡（日高町浅倉）日高町提供



濁流で破壊された民家（日高町赤崎）日高町提供



日高町岩中 日高町提供



日高町十戸  
日高町提供

# 但東町



但東町内の出石川の状況（20日）  
但東町提供



崩落した国道426号（但東町栗尾）但東町提供



土石流が押し寄せた民家（但東町薬王寺）但東町提供



土石流で破壊された建物（但東町奥赤）但東町提供



崩落した国道426号（但東町平田）但東町提供

# 城崎町



城崎町来日付近の状況  
国土交通省撮影



城崎町戸島の状況 当本部撮影



城崎町戸島の状況 当本部撮影

# 竹野町



崩落した道路（竹野町森本）竹野町提供



崖崩れで塞がれた道路（竹野町森本）竹野町提供



テレビ局等は、被災状況を全国に向けて発信した。（豊岡市立野町） 大阪市消防局撮影  
台風24号の接近に向けた消防体制の取材に来署したテレビ局（25日） 当本部撮影



# ドキュメント23号

2004. 10. 20~22

## 20日

- 09時00分 城崎町、日高町、出石町が災害警戒本部を設置する。
- 11時00分 但東町が災害警戒本部を設置する。

### 台風上陸

- 13時00分 台風23号が高知県土佐清水市付近に上陸。この頃から管内の風雨が強まる。消防本部災害警戒本部設置。豊岡市、竹野町が災害警戒本部を設置する。
- 15時30分 非番職員を非常召集。  
出石町及び城崎町が災害対策本部を設置する。

### 上流部で災害発生

- 16時00分 日高町、但東町が災害対策本部を設置する。
- 16時10分 兵庫県水防指令第3号発令を受け、当本部全職員を非常召集し消防本部災害対策本部を設置。管内の浸水状況等の情報収集を開始する。  
豊岡市、竹野町が災害対策本部を設置する。
- 16時40分 日高町浅倉地区内で、道路が冠水し車が流されているとの通報により、日高分署に救助指令。各地から、浸水や逃げ遅れに関する通報が相次ぐ。
- 18時05分 豊岡市全域（一部地域を除く）に避難勧告発令。

### 消防庁舎浸水

- 18時07分 出石郡分署庁舎東側の出石川堤防が越水し庁舎浸水の恐れがあるため消防車両退避。その直後に破堤し庁舎が浸水する。分署北側の国道426号に流れ込んだ濁流により、立ち往生した通行車両及び付近住民の救助活動を実施。
- 18時38分 豊岡消防署庁舎浸水。消防車両の避難を開始するが、別棟車庫のシャッターが強風で破損し一部の車両が避難できず水没。浸水による孤立や土砂崩れに関する119番通報が相次ぐ。
- 19時35分 日高町浅倉地区で救助活動中の日高分署隊が急激な増水により退路を断たれ撤退不能となる。要救助者とともに付近の建物内に避難後孤立。日高分署消防車と日高町消防団の消防車各1台が水没。付近は、最大5mまで冠水。
- 20時04分 隣接する消防本部に救助ボートの借用を申し入れるが、各地とも災害対応により貸出し不能との回答を得る。
- 21時05分 出石町内の在宅治療患者から、停電により人工呼吸器のバッテリー容量が不足し救急要請。停電地域の拡大に伴い他市町でも同種の救急要請が相次ぐ。
- 21時09分 豊岡市立野町の立野大橋東詰付近で堤防決壊の恐れ。

豊岡市内及び港地区、日高町、出石町の住民から浸水による救助要請が相次ぎ消防隊救助隊、救急隊が出動し活動を行うほか、各市町の対策本部を通して消防団、警察等に協力要請等を行う。

23時06分 豊岡市立野町の立野大橋東詰付近が溢水し堤防下段が崩落。他の溢水箇所も確認するよう指示。

## 23時15分 豊岡市立野町円山川右岸破堤

23時17分 救助隊員が、豊岡市立野町の破堤箇所を現認し消防隊に出動指令。  
豊岡市一日市の左岸堤防の小堤が欠損し、西部地域の冠水被害が拡大。(欠損時刻は不明)

23時25分 海上保安庁へヘリコプターの出動を要請するが、夜間の陸上飛行は不可能との回答。

## 23時37分 出石町鳥居出石川左岸破堤

23時49分 救助隊から立野町破堤場所付近では、濁流のためボートによる救出活動は不可能と報告。豊岡市、出石町の破堤場所付近の住民から救助要請の119番が殺到。

# 21日

00時55分 神戸市消防局に対して、県・消防相互応援協定に基づく出動準備を要請。

## 01時30分 兵庫県下消防本部へ応援要請

豊岡消防署の自家発電設備が浸水し、停電対応が不能となる。

01時35分 国土交通省が、豊岡市立野町右岸破堤に伴い増水する内水を排水するため、円山川水位の上昇に伴い停止していた支流六方川の六方排水機場ポンプを作動。

02時06分 豊岡市立野町の破堤箇所は、幅約100mに拡大し、大量の洪水が住宅地区側へ流れ込む。

破堤現場の東約70mの住宅の屋根上に取り残された7名は、夜明けを待って兵庫県消防防災ヘリコプターにより救助することを決定。それまでの間に救命索発射銃を使用してラインを設定し、ライフジャケットと毛布を届ける。

02時11分 出石川が氾濫し、流域で浸水被害が拡大。逃げ遅れた住民からの救助要請が相次ぐ。

02時18分 豊岡市九日市の関西電力変電所が浸水し、市南西部一帯が停電。これにより豊岡消防署も停電し、通信指令システムは非常用電源に切り替わる。

03時30分 携帯119受信装置を除き、通信指令システムの非常用電源の容量が無くなりシステムがダウンする。

05時43分 豊岡市江本のNTT電話施設が浸水し、一部の地域の119番が不通となる。

05時57分 豊岡市東部地域の増水が小康状態となる。  
07時46分 県下消防本部応援隊24隊が豊岡市立野町に到着し救助活動を開始する。逃げ遅れ住民は800世帯1000人超。  
07時20分 県消防防災ヘリコプターが、豊岡市立野破堤現場で逃げ遅れた7名の救助を開始し08時03分完了する。以後、豊岡市内、出石町内の救助、救急搬送にあたる。

## 08時30分 緊急消防援助隊要請

08時30分 大阪府隊出動準備。  
09時10分 神戸市消防局ヘリコプター2号機が、出石町三木で2名の救助及び4名の救急搬送を行う。以後、豊岡市内、出石町内の救助、救急搬送にあたる。  
09時40分 県下消防本部応援隊のボート15艇により53名を救助。以後、22日にかけて557名を救助。

## 09時50分 緊急消防援助隊第2要請

09時50分 滋賀、岡山各県隊出動準備。名古屋市消防局航空隊に総務省消防庁職員の搬送要請。  
10時15分 県下消防本部応援救急隊11隊増強の応援要請。  
11時30分 県下消防本部応援隊2隊により、豊岡市一日市、船町、野田、福田、中陰付近の救助活動を開始。  
14時40分 大阪府隊が、豊岡市今森、江本地区の救助活動開始。22日にかけて58名を救助。  
14時50分 大阪市消防局ヘリコプターにより豊岡市江本地区で2名救助。  
15時30分 総務省消防庁職員が豊岡市到着。  
17時45分 岡山県隊、滋賀県隊到着  
23時10分 活動中断。

応援隊に関する詳細な記録は、P36に記載しています。

# 22日

05時30分 救助活動再開。  
06時15分 岡山県隊が、豊岡市八社宮地区の救助、避難確認作業を開始。  
07時00分 滋賀県隊が、兵庫県隊と共に豊岡市梶原地区の救助、避難確認作業を開始。  
09時35分 大阪府隊が、豊岡市野田地区の救助、避難確認作業を開始。  
09時45分 岡山県隊が、豊岡市下陰地区の救助、避難確認作業を開始。  
10時10分 兵庫県隊・滋賀県隊が、豊岡市福田地区の救助、避難確認作業を開始。  
13時37分 緊急消防援助隊及び兵庫県隊の引き上げ決定。  
14時00分 全隊活動終了。豊岡市立総合体育館にて解散式。  
18時00分 当消防本部の非常召集を解き、全署所を通常体制とする。

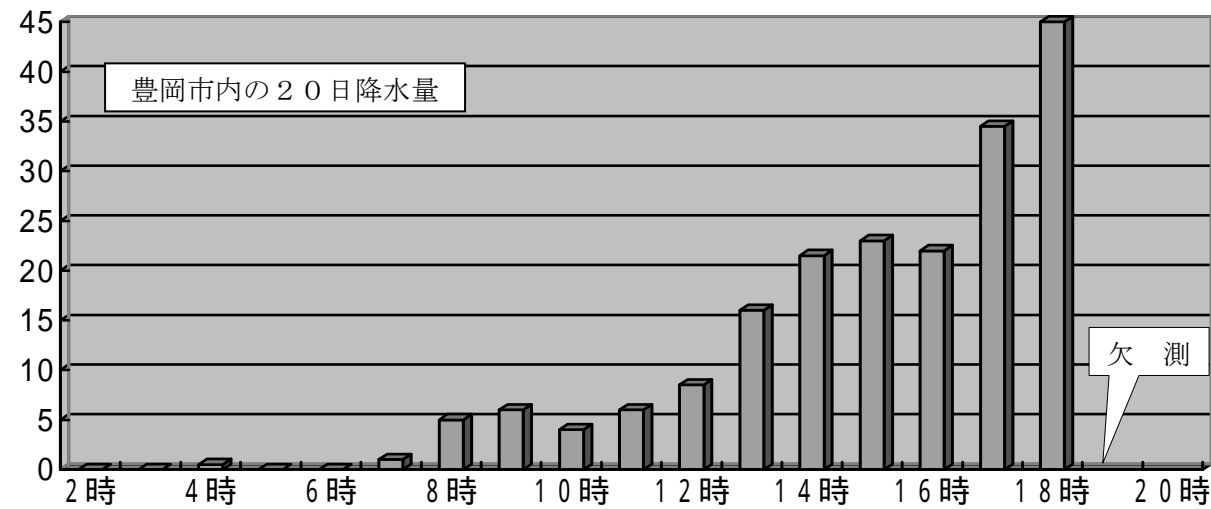
23日以降、台風24号の接近に伴う降雨による土砂災害危険地域警戒のため随時、非番者召集による人員増強を実施。

# 円山川水系に 猛烈な雨

台風23号は、10月20日13時頃高知県土佐清水市付近に上陸し、同日18時頃、大阪府泉佐野市付近に再上陸した。再上陸時の気圧は970ヘクトパスカル。強い勢力を保ったまま北東に進んだ。  
再上陸地点から北へ130km離れている当地方は、同日13時頃より風雨が強まり、18時頃には猛烈な暴風雨となった。



20日17時紀伊水道付近における台風23号のデータ	
進行方向と速度	北東 50 km/h
中心気圧	960 hPa
中心付近の最大風速	40 m/s
風速25m以上の暴風域	南東側280 km 北西側190 km
風速15m以上の強風域	南東側800 km 北西側560 km



台風の接近に伴い、神戸海洋気象台から19日11時15分兵庫県気象情報第1号が発表され、20日11時00分、当地方に大雨洪水暴風波浪警報が発表された。

20日正午頃から雨足が強まり、降り始めから午後6時までの総雨量は、豊岡市内162mm、円山川上流の和田山169mm、出石川上流の出合228mm、稲葉川上流の栗栖野215mm、奈佐川上流の辻226mmとなった。その後も、20時までの2時間に円山川と稲葉川上流域で時間雨量20～35mmの激しい雨が降り続いた。市内の浸水被害が広がる中、豊岡市桜町にある豊岡測候所が浸水し、観測不能となったため豊岡市内の雨量・風速等は欠測となっている。

## 但馬北部に発表された気象情報 19日～22日

発表日時	気象情報	警報	注意報
19日11:15	台風23号に関する兵庫県気象情報 第1号		
17:10	台風23号に関する兵庫県気象情報 第2号		
20:52			大雨、強風、波浪、洪水
22:20	台風23号に関する兵庫県気象情報 第3号		
20日 5:40	台風23号に関する兵庫県気象情報 第4号		
7:00		暴風	大雨、波浪、洪水
7:35		暴風、波浪	大雨、洪水
11:00		大雨、洪水、暴風、波浪	雷
11:30	台風23号に関する兵庫県気象情報 第5号		
13:25	台風23号に関する兵庫県気象情報 第6号		
14:30	台風23号に関する兵庫県気象情報 第7号		
14:30	国土交通大臣が発する水防警報 第1号待機		
15:00	出石川洪水予報第1号		
15:00	水防警報第1号待機		
15:05		大雨、洪水、暴風、波浪	雷
15:30		大雨、洪水、暴風、波浪	雷、高潮
15:40	円山川洪水予報第1号		
16:00	県民局長の発する水防警報第2号準備		
16:00	国土交通大臣が発する水防警報 第3号出動		
16:55		大雨、洪水、暴風、波浪	雷、高潮
17:10	出石川洪水予報第2号		
17:20	台風23号に関する兵庫県気象情報 第8号		
17:45	円山川洪水予報第2号		
18:00	台風23号に関する兵庫県気象情報 第9号		
19:30		大雨、洪水、暴風、波浪、高潮	雷
20:15	台風23号に関する兵庫県気象情報 第10号		
23:00		大雨、洪水、波浪、高潮	雷、強風
23:15	台風23号に関する兵庫県気象情報 第11号		
21日 3:30		洪水、波浪	大雨、強風
4:24		洪水、波浪	大雨、強風
6:10		洪水	強風、波浪
10:20		洪水	波浪
15:30	出石川洪水予報第3号		
15:50	円山川洪水予報第3号		
20:50		洪水	
22日 8:10	出石川洪水予報第4号		
8:30	円山川洪水予報第4号		
8:40			洪水

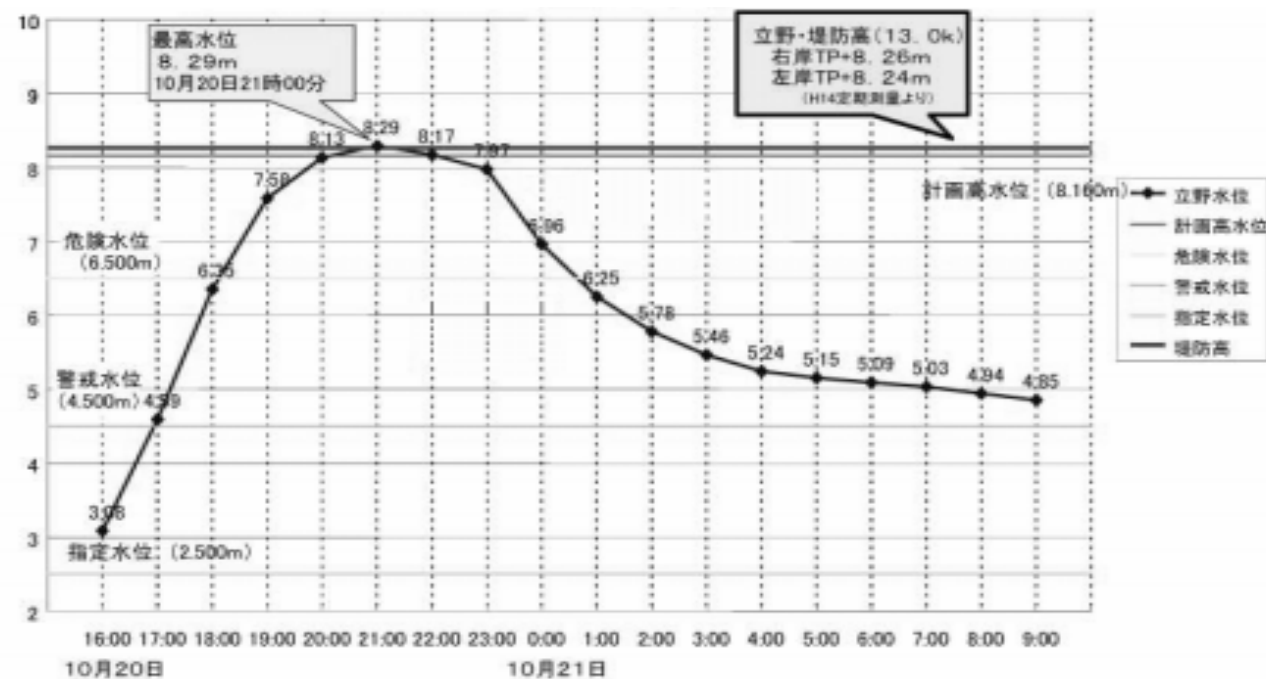
## 台風23号接近時の気象(20日)

時刻	現地気圧 hPa	気温 ℃	相対湿度 %	風向	風速 m/s	降水量 mm
6時	1009.6	16.2	93	東南東	0.9	0.0
7時	1008.3	16.2	93	北北西	1.9	1.0
8時	1010.0	16.4	93	南東	2.9	5.0
9時	1008.0	16.6	93	西北西	2.0	6.0
10時	1006.4	17.4	89	北北西	1.8	4.0
11時	1004.9	18.0	89	北北東	3.0	6.0
12時	1001.1	18.3	88	北東	5.5	8.5
13時	997.7	18.3	87	北北東	6.5	16.0
14時	995.6	18.0	84	北北東	8.9	21.5
15時	992.5	17.9	87	北北東	9.2	23.0
16時	989.2	17.3	86	北北東	11.8	22.0
17時	988.9	17.1	89	北北東	8.7	34.5
18時	991.3	16.9	88	北	10.5	45.0
19時	以後欠測					

豊岡測候所調べ

## 20日 円山川が過去最高の水位を記録

円山川の水位は、20日20時に豊岡市立野町で8.13m、21時には8.29mに達し堤防の限界である計画高水位の8.16mを上回った。また、日高町赤崎では、20時に8.03m、出石川では19時に出石町弘原で5.36mを記録したが、いずれも過去に例を見ない急激な増水であった。各地で堤防越水が報告され始め、23時15分豊岡市立野町円山川堤防右岸が破堤、豊岡市一日市円山川左岸堤防の欠損(発生時刻不明)により市内の約8割が浸水、さらに23時37分出石町鳥居の出石川堤防左岸が破堤し出石町小坂地区が浸水した。



台風23号による豊岡市立野における円山川の水位

## 円山川とその水系

円山川は、兵庫県の北東に位置し、源を朝来市生野町円山(標高640.1m)に発し、但馬地方の中央部を北に流れ、中国山脈から東流する大屋川、八木川、神子畑川などと合流し、但馬平野で出石川、奈佐川などの支流と合流し日本海に注ぐ。流域面積は1300km<sup>2</sup>、幹川流路延長68km、その他の支流延長638.3km。

下流部は、河口との落差が1mの低平地のため、満潮時には河口から約16km上流の出石川合流付近まで海水が侵入する。

過去にも幾度となく流域に水害をもたらしているが、今回の台風23号による水害はこれらを上回るものであった。

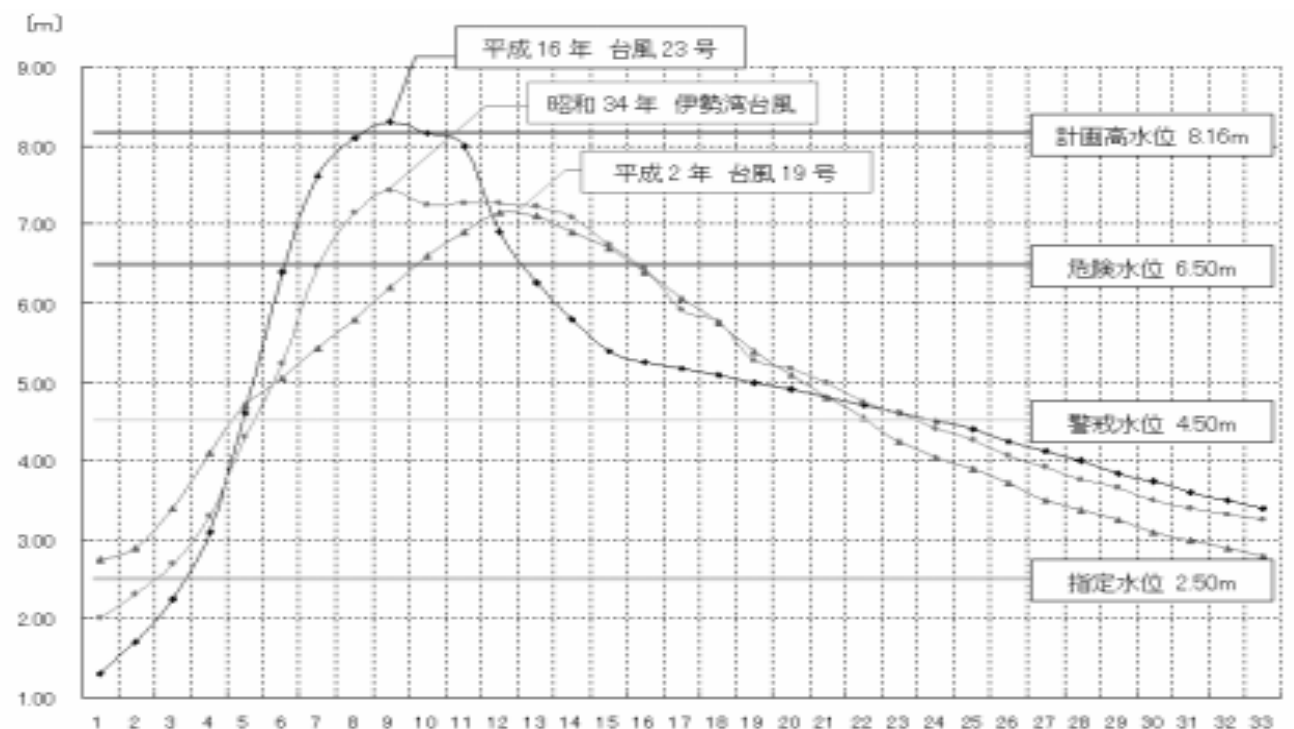


### 円山川の主な洪水

年月日	洪水原因	立野最高水位	備考
S34.9.26	伊勢湾台風	7.42m	破堤
H2.9.20	秋雨前線・台風19号	7.13m	
S51.9.10	台風17号	6.92m	
S36.9.15	第二室戸台風	6.87m	破堤
S40.9.10	台風23号	6.86m	

(近畿地方整備局豊岡河川国道事務所)

当地方は、昭和34年に襲来した伊勢湾台風と平成2年の台風19号で大きな水害に見舞われている。その際の円山川水位と比較すると、今回は過去に例を見ない急激な増水であり高水位であった。

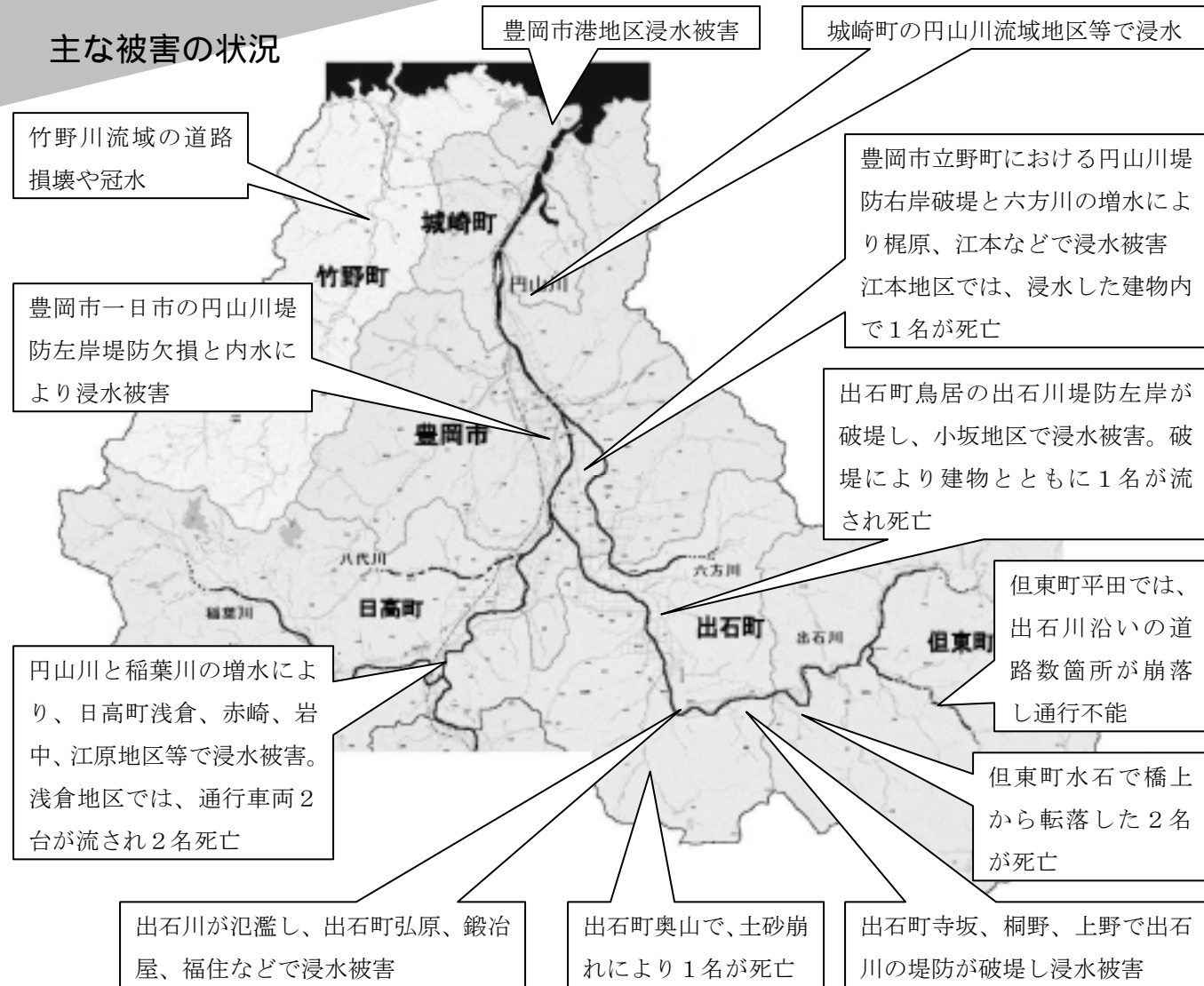


近年の水害との水位比較(豊岡市立野観測点)



# 被害の状況

## 主な被害の状況



# 河川氾濫と相次ぐ破堤



## 出石町寺坂 出石川堤防右岸の破堤（写真矢印A）

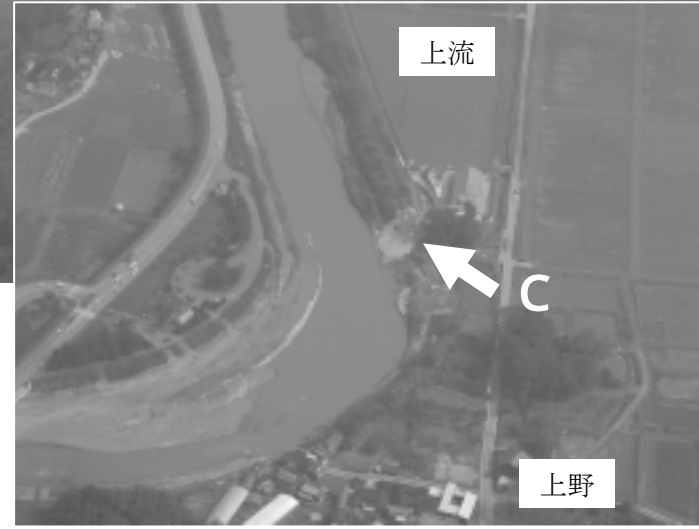
20日18時07分頃、出石町寺坂出石川堤防右岸が破堤し、日野辺地区の住宅や国道426号が冠水。破堤箇所が豊岡消防署出石郡分署庁舎の東約50m上流であったことから、分署庁舎も1階部分が約80cm浸水した。

## 出石町桐野 出石川堤防左岸の破堤（写真矢印B）

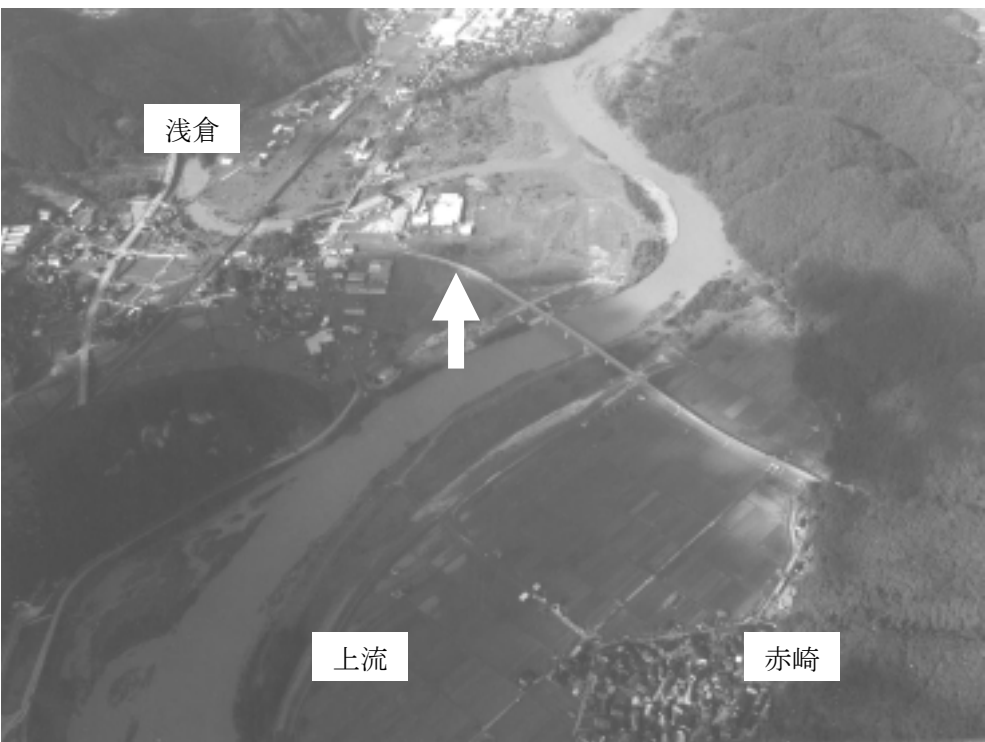
寺坂の破堤と同時刻と推定される頃、破堤箇所Aの下流約200mで出石川堤防左岸が破堤し、桐野、上野地区に洪水が流れ込み工場等が浸水した。

## 出石町上野 出石川堤防左岸の破堤（写真矢印C）

寺坂の破堤と同時刻と推定される頃、破堤箇所Bの下流約1.8kmで出石川堤防左岸が破堤し、上野地区の一部が浸水した。



出石町提供



## 日高町赤崎と浅倉 円山川氾濫

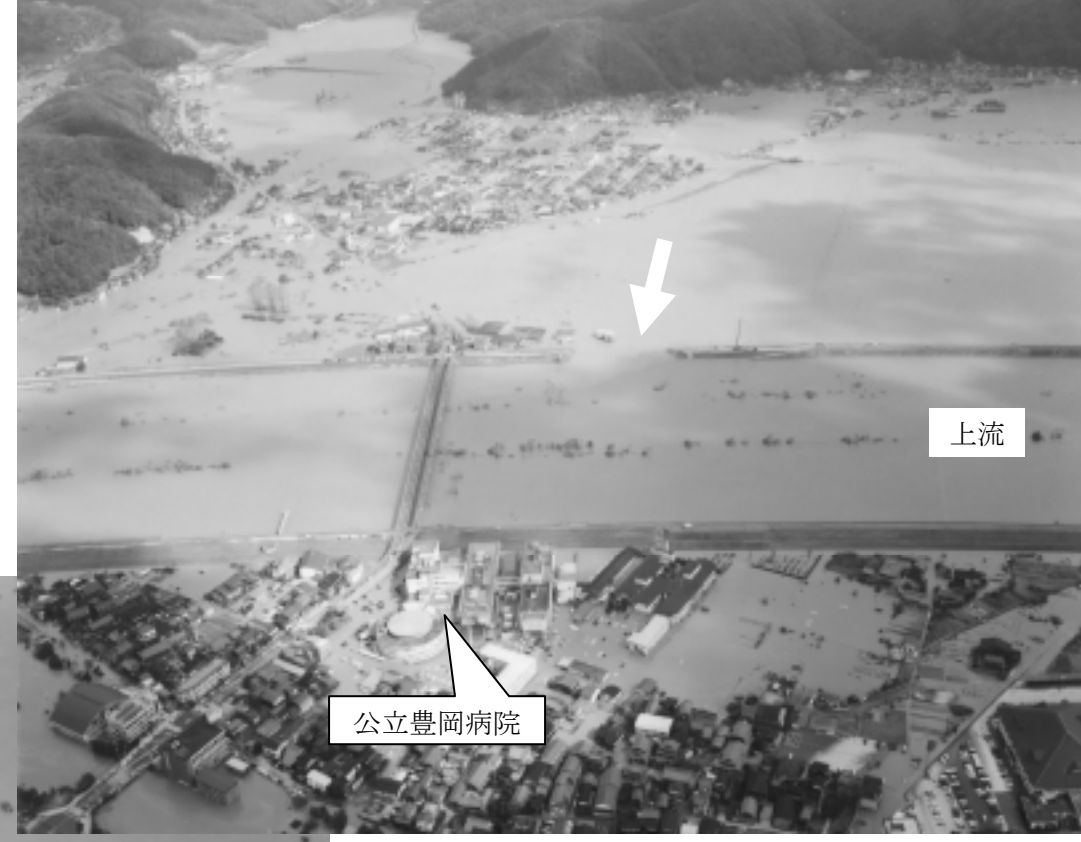
20日16時40分「日高町浅倉地区内で人が流されている。」との119番通報。この頃までに、水位が増した円山川の洪水が両岸に流れ込んだと見られ、浅倉地区内の国道312号は最大約5m冠水し、付近の建物も約4mの浸水に見舞われた。

写真の浅倉と赤崎の間の低地はすべて濁流で覆われた。矢印の場所では、2台の通行車両が流され2名が亡くなった。

国土交通省撮影

## 豊岡市立野地先 円山川堤防右岸13.2km付近の破堤（右写真矢印）

20日23時15分、豊岡市立野地先円山川堤防右岸13.2km付近が破堤し、豊岡市東部地域一帯が浸水した。



国土交通省撮影

## 豊岡市一日市 円山川堤防左岸9.6km付近の欠損（左写真矢印）

20日深夜（欠損時刻不明）、豊岡市一日市の円山川堤防左岸9.6km付近が欠損し、豊岡市北西部に洪水が流れ込んだ。

国土交通省撮影



国土交通省撮影

## 出石町鳥居地先 出石川堤防左岸9.4km付近の破堤（写真矢印）

20日23時37分、出石町鳥居地先出石川堤防左岸9.4km付近が破堤し、出石町小坂地区一帯が浸水した。



# 殺到する 119

暴風雨が激しさを増した20日16時頃より、浸水や土砂崩れに関する通報や救助を求める通報が頻繁にかかり始め、通信指令員を通常の3倍の6名に増員して対応にあたった。

日没後、浸水被害の拡大と共に通報数が増え、円山川堤防の破堤により救助要請が殺到した。通報は、通常の119のみならず、携帯電話119、一般加入回線にかかり続けた。

21日1時30分、豊岡消防署の自家発電設備が浸水し使用不能となる中、同日2時18分市内南西部一帯が停電。通信指令システムが予備電源に切り替わった。3時30分、予備電源の容量が無くなり通信指令システムがダウン。電話の受信は可能であるため、通信指令員は懐中電灯を片手に対応にあたった。

「2階まで水が来た。」「逃げるところがない!」殺到する通報。  
しかし、濁流に阻まれ救助に向かえないこと、救助を求める人々が多すぎる・・・  
「屋根裏、屋根の上、できる限り上へ逃げてください。」と応えることしかできなかった。

## 119番の受信件数(20日~23日)

区分	受信件数(20日の受信)
119	203 (124)
携帯119	206 (113)
計	409 (237)

上の表は、20日15:00~23日8:30の間の119番受信件数をまとめたものである。この他に、加入電話にかけられてきた通報も多数あるが、件数の把握を行っていない。これら通報の約60%は、20日に集中した。

また、携帯119は、但馬管内の代表受信を行っているため、当本部管轄区域外からの通報も含まれている。

携帯119転送先	転送件数
養父市消防本部	11
あさご消防本部	2
美方広域消防事務組合 消防本部	2

当本部で受信した携帯119のうち管轄区域外からの通報は、その発信地域を管轄する消防本部に転送する。携帯119の受信件数206件の内、他の消防本部に転送したものは、15件であった。養父市消防本部管内からの通報は、円山川流域の八鹿町浅間と宿南地区からのものが主であった。

### 豊岡消防署 津田 亮一

その日は、朝から台風に関する気象情報が続々と入り、対応に追われていた。台風の接近が間近な割に雨足は大したことがないと感じながら窓の外に目を向けたときだった。山陰線の高架下の道路が既に冠水しており、そこへ1台の車が進入し動かなくなった。救助隊が向かい事なきを得たが、その頃から風雨が強まりだした。

助けを求める119番が鳴り出したのはその直後のことであった。119番専用の3回線と携帯119番専用の2回線が次々と鳴り出した。こういう時、私たちは、通報内容から緊急度や重症度を判定し部隊出動の優先順位を付ける「情報のトリアージ」を行うのだが、119番以外にかかる加入電話、現場との無線対応が錯綜し続けた。増員はされたものの6名という限られた人員で予測をはるかに超えた大災害に対応するには、要請事項の取捨選択を迫られた。無線が大混信し、正確な情報収集ができず、部隊運用も限界となっていった。

このような状態が何時間続いたのだろうか。突然大きな音とともに灯りが消えた。最も恐れていた停電である。薄暗い中での指令業務となった。そして、朝を迎えた。窓の外に変わり果てた街の姿が広がっていた。

# 拠点浸水

活動の拠点である消防庁舎が被災した。被害は、浸水のみならず自家発電設備の浸水と停電による通信指令システムのダウンと断水、体制と隊員にとって非常に過酷なものとなった。

通信システムのダウンにより各市町の災害対策本部や緊急消防援助隊との円滑な連絡に支障をきたしたほか、情報の集約や無線機の電源不足により現場活動中の隊員との連絡に支障をきたした。

また、胸まで水に浸かって出動と帰還を繰り返す隊員の疲労は激しく、水濡れによる低体温と断水による飲料水不足、トイレの問題などが追い討ちをかけた。しかし、隊員たちは「救助を求める人たちは、もっと危険な場所で我々と同じ状況なのだから」と叱咤激励しあい、さらに県下及び隣接府県から応援に駆け付けた仲間を支えられながらの活動となった。

20日17時00分頃、叩きつけるような風雨の中、豊岡消防署西側の山陰線高架下道路に雨水が流れ込みだした。見る見るうちに道路が水没し、そこに通行車両が進入するのを隊員が目撃し救助に向かった。幸い運転手にけがはなく通行止めの処置をしたがさらに1台の車が進入し救助を求めてきた。自力で逃げ出した運転手は無事であったものの、増水は止まらず消防庁舎に迫る勢いであった。この洪水は、後に日高町の八代川の増水によるものであることがわかった。

同じ頃、出石町寺坂にある豊岡消防署出石郡分署では、庁舎の東側を流れる出石川の水位が異常な増水を続け、18時07分頃堤防から溢れた濁流が庁舎に迫った。消防車両を退避させた直後、堤防が破堤し濁流が一気に庁舎と国道に流れ込んだ。国道を走る一般車両が次々と濁流に巻き込まれ立ち往生した。

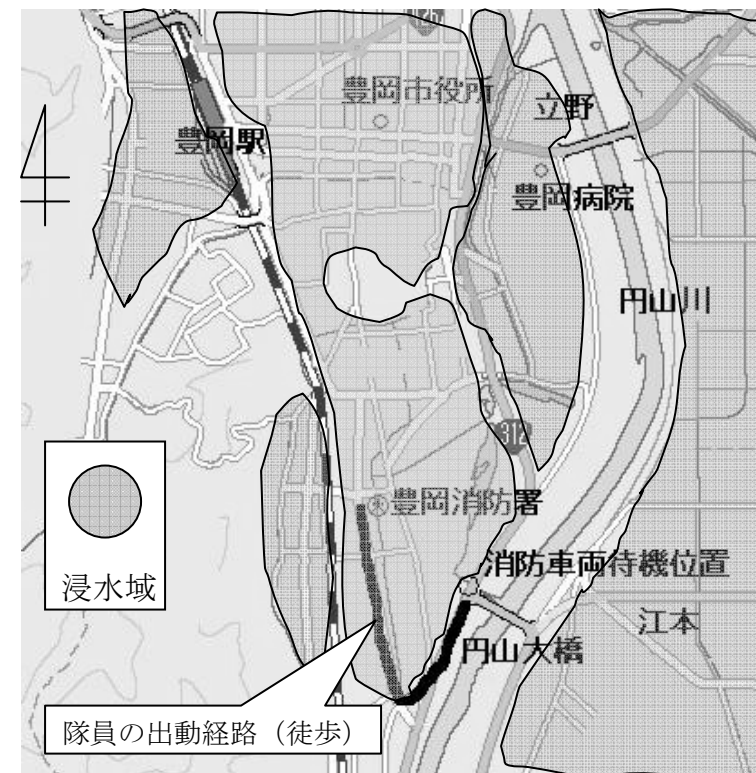
## 出石郡分署に濁流が直撃



破堤して押し寄せた濁流で駐車場と道路が破壊された出石郡分署  
出石町提供

18時38分頃、豊岡消防署前の道路が冠水。消防車両を市街地の高台に退避させようとしたが、市街地の道路は冠水の恐れがあるとして市街地とは反対方向にある約1.5km離れた円山川堤防上の国道312号路側帯を選択し退避を開始した。庁舎前の道路は既に20cmほど冠水し異常な速さで増水していた。正面車庫内の車両に続き、庁舎北面の別棟に収納している予備救急車、化学消防車等を退避させようとしたが、強い風によって破損したシャッターが開かず化学消防車の退避を断念。かろうじて開いた部分から2台の車両を出庫したが、既でに水深が50cm以上に達していたため、車両は路上で走行不能となり隊員が押して正面の車庫内へ移動させた。結果、化学消防車1台、救急車2台、積載車1台、搬送車1台、指揮車1台が水没し、正面の車庫内に避難してきた一般車も全て水没した。

出動中の車両へ、庁舎浸水を知らせ待機場所は堤防上であることを伝えた。庁舎が浸水したことは過去にないことであり、この時隊員の多くは今回の水害は大災害になると感じていた。



## 豊岡消防署が浸水



豊岡消防署車庫の浸水状況 朝日新聞社提供



豊岡消防署駐車場と周辺の浸水状況 当本部撮影



豊岡消防署周辺の浸水状況 当本部撮影

# 活動の概要

## 豊岡消防署

兵庫県水防指令第3号の発令を受けて、20日16時10分非番職員全員を非常召集し活動体制をとるとともに、豊岡消防署に指揮本部を設置した。活動開始当初は、情報収集を行う一方、119番による住民からの救助、救急要請に対応し、各市町の災害対策本部設置後は対策本部からの要請を主に活動を行ったが、管内のほぼ全域が同時に被災する広域災害に消防力の分散を余儀なくされ、追い討ちをかけた庁舎の浸水と停電により活動能力を大きく削がれる中での活動となった。

豊岡消防署が管轄する豊岡市では、円山川の増水と内水の増水により市内の浸水被害が拡大、20日深夜、立野町で円山川が破堤、さらに一日市で堤防が欠損したことにより、市内の約8割が浸水、破堤現場付近の地区では逃げ遅れた住民からの救助要請が殺到した。

20日から21日明け方にかけては、浸水に伴う救助要請に対して活動を行ったほか、急病や暴風雨等に起因する負傷に対する救急活動を行った。停電地域の拡大と共に、在宅治療患者から人工呼吸器や吸引器のバッテリー容量の不足による救急要請が相次いだほか、孤立の長期化により人工透析等で通院加療中の患者からの救急要請が目立った。さらに雨漏りにより分電盤からの発煙や自動火災報知設備の作動による確認要請に伴う出動、冠水道路を避難する際の誘導などの活動を行った。活動は、浸水により車両の機動力を期待できず、徒歩による出動がほとんどであったことから、現場到着や救出活動に長時間を要し、全隊を投入しても相次ぐ要請全てに対応できない状況であった。

21日未明、被害の拡大により、当消防本部の消防力を超えたとして、神戸市消防局に対して県下消防本部の応援を要請、さらに兵庫県に対して緊急消防援助隊の応援を要請した。

21日の夜明けと共に、県下応援隊及び自衛隊と協力し救助・救急活動にあたり、同日午後には、大阪府の緊急消防援助隊の応援を得て活動が本格化した。22日、水位の低下後は、さらに滋賀、岡山県の緊急消防援助隊の協力を得て救助活動や浸水地域の全戸に対する安否確認作業を行った。

23日以降は、接近する台風24号による雨で土砂災害が懸念されたことから、豊岡消防署の人員を増強し警戒にあたった。



立野大橋に到着した兵庫県下消防応援隊 尼崎市消防局撮影

## 1市5町における当本部の活動件数(20日~22日)

種別	出動件数(件)	救出人員(人)	備考
救助出動	59	167	当本部隊によるもの
救急出場	50	54	
避難誘導	4	62	
怪煙偵察	8	-	自動火災報知設備の作動等
安否確認	8	-	119番による個別の依頼分
水防活動	2	-	排水作業等
その他	31	-	道路確認、被害調査、脱輪車救援等 当本部の各署所における活動数のみ

## 救出・救急搬送人員(20日~22日)

区分	合計	当本部隊	県下消防応援隊 緊急消防援助隊	交通遮断による福知 山市消防本部応援
救出人員	782	167	615(16)	-
救急搬送人員	85	54	29	2



救助活動を行う県下消防応援隊

共同通信社提供

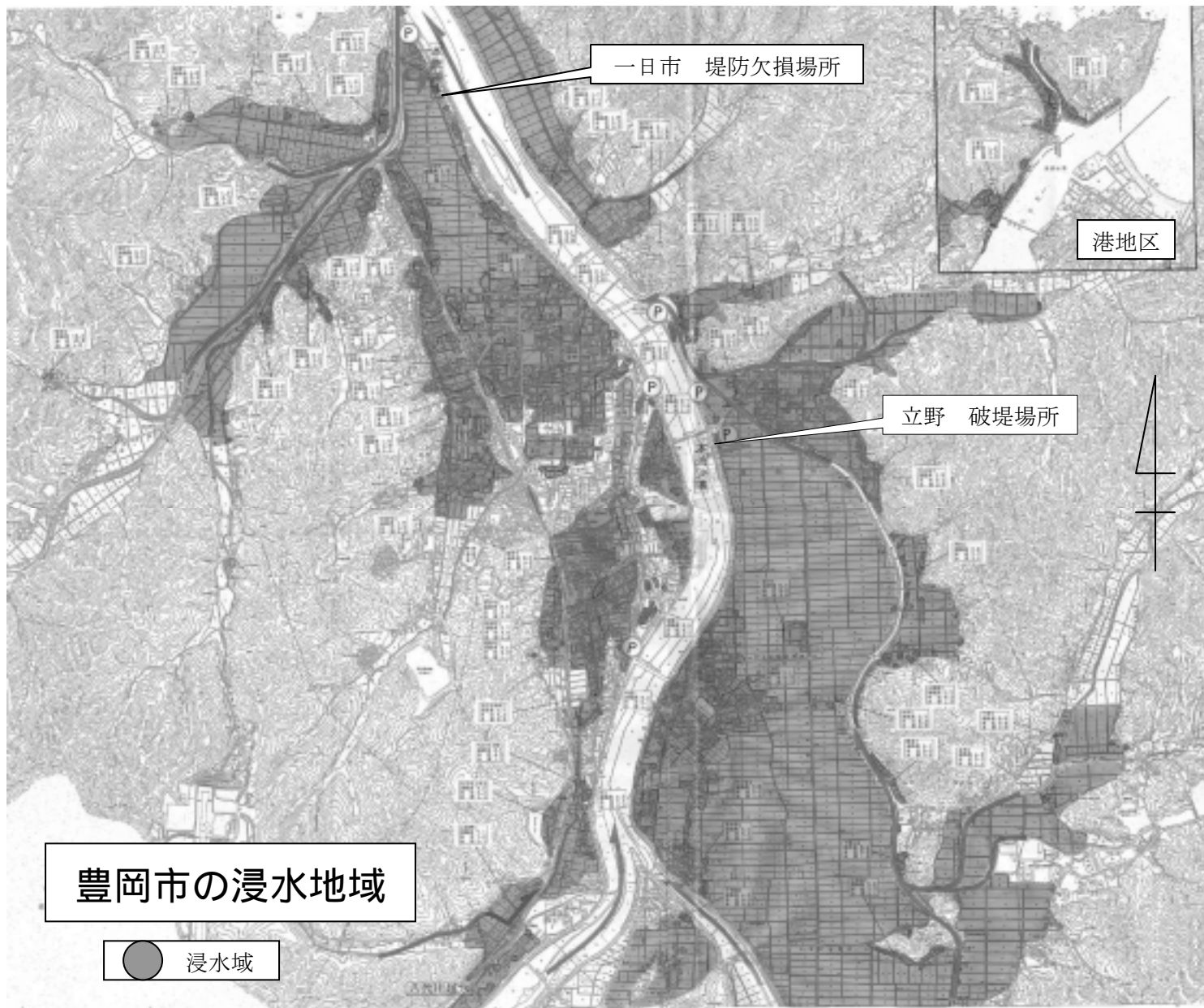
### 豊岡消防署 井崎博之

「救助隊は立野の破堤現場を確認せよ」の指令を受け急行した私は、幅約20mに渡り決壊した堤防から、円山川を一杯に満たした濁流がゴォーと音をたてて宅地側に流れ込む光景に息を呑んだ。決壊場所から視線を移すと、一軒の民家の屋根に身をよせる家族の姿があった。これまで何百もの現場活動に携わり、何らかの救助方針を打ち出し救助してきた。しかし、今日の前に叩きつけられた現場では、その方針すら容易には浮かんでこない。「ボートか・・・いや、こんな激流の中では危険すぎる。」「発射器でロープを渡そうか・・・いや、着水したロープが受ける激流の抵抗はロープを引く者を転落させる危険がある。」手段を考えては打ち消される中、時間ばかりが過ぎていく。無理を承知で本部にヘリコプターを要請した。本当にできることはないのか。とにかくロープ発射器を取りに一旦帰署する。それで何かができると自分自身に言い聞かせながら、その場を他の部隊に引継ぎ署に向かった。

暗闇の中、急流の川と化した道路を胸まで水に浸かり歩く。流木が身体に当たり、流されそうになりながらやっとの思いで署にたどり着いた。そこで聞かされたのは、「夜間にヘリは飛ばない。夜明けと同時に神戸を離陸する。」との情報だった。直ぐに航空隊の事務所に連絡を取り、現場の状況を伝えた。彼らも、生後二ヶ月の子供を救出する方法に頭を悩ませていた。40kgの発射器を持って再度現場に向かう。

現場は、幾分流れが治まっているものの、流木やゴミが多数確認できる。発射器で細目のロープを撃ち、そのロープを使用してライフジャケットと毛布を届けたいのだが、ロープは2本、チャンスは2回。1回目の発射は、風を読む意味もあったが、予想以上の強風に流され風下側に外れた。そして2発目を発射。「ロープ到達！」直ぐにロープを引くように指示、こちらもあるだけのロープを送り出し抵抗がかからないようにしながら、流木等が引っかからないことを祈った。もし引っかかればロープに抵抗がかかり保持者が転落する恐れがあるため、こちらがロープを離すつもりだった。無事に展開できたロープを使い、ライフジャケットと毛布を送り届けた。

待ちに待った夜明け、南の空に航空隊のヘリコプターの音と姿を確認。ヘリコプターは、屋根の上から一人ずつ機内に吊り上げて救出した。最も心配だった二ヶ月の子供は、家庭用の赤ちゃんベルトでしっかりと守られて救出された。ベルトは、航空隊の同僚が深夜の神戸の街から調達したものだった。助けたいという多くの心がひとつになった瞬間だった。その光景を目に焼き付け、私にとって長い夜が終わった。腰に着けた無線機から次の指令が下命され、息つく間も無く消防車に乗り込み次の現場へ向かった。



## 豊岡市の浸水地域

● 浸水域

豊岡市調べ

### 豊岡消防署 岸田 康 秀

市内全域が泥水に覆いつくされ、あらゆる機能が停止状態であった20日23時40分、救急要請が入電した。現場は、市内北部。疾患のため気管切開をしている乳児が自宅で喉から定期的に吸引を行う必要があるが、自宅が停電となり吸引器のバッテリーで使用していたが、バッテリーの残量が少なくなり、このままでは吸引が出来なくなるというものであった。すなわち、呼吸困難を起こせば生命の危機に陥るというものである。私は、救急車待機場所の円山川西詰めから救急隊員として出場した。いくつか選択した経路は、ことごとく途中で冠水により行く手を阻まれた。隊長の苦渋の判断で車両を帰還させ、隊員3人で呼吸管理セットを携行し、徒歩で現場へ向かった。進むにつれ水深は増すばかり。大腿部中ほどまでの水深でも水の抵抗は激しく、中々歩けない。時間ばかりが経過していった。1時30分、北近畿タンゴ鉄道軌道敷上に到達。辺りは信号機の光すらなく、何の音も無い静け

さと水で覆いつくされた住宅街。そこから見た光景は、まさに死の町というに等しかった。途方も無く続く水面に砕けそうになる気力を振り絞り現場へ向かった。

しかし、水深が深くどうしても先に進めず方策に戸惑っていたとき、1台の重機が通りかかった。建設会社の社員が、重機を移動させていたものだった。最後の望みをこの重機に託し、無理を承知で現場までの搬送を依頼すると快諾、大きく迂回しながらも2時58分ようやく現場到着した。吸引器のバッテリー残量は僅かながら残っており、重機による搬送が確保できていたことから、豊岡病院への搬送を決定した。病院連絡の後に再度重機にて途中数回吸引しながら搬送、3時35分豊岡病院へ収容した。収容後、体力の限界を感じつつ、胸までの水深の中徒歩にて5時30分帰署した。出勤から約6時間、自然災害という怪物に脅威を感じた出勤だった。



## 出石郡分署

一面が泥の海と化し、通行車両が次々と濁流に巻き込まれた出石郡分署前の国道426号 当本部撮影

出石郡分署が管轄する出石町と但東町では、20日15時頃から出石川が増水し、道路の損壊や土砂崩れが続発した。

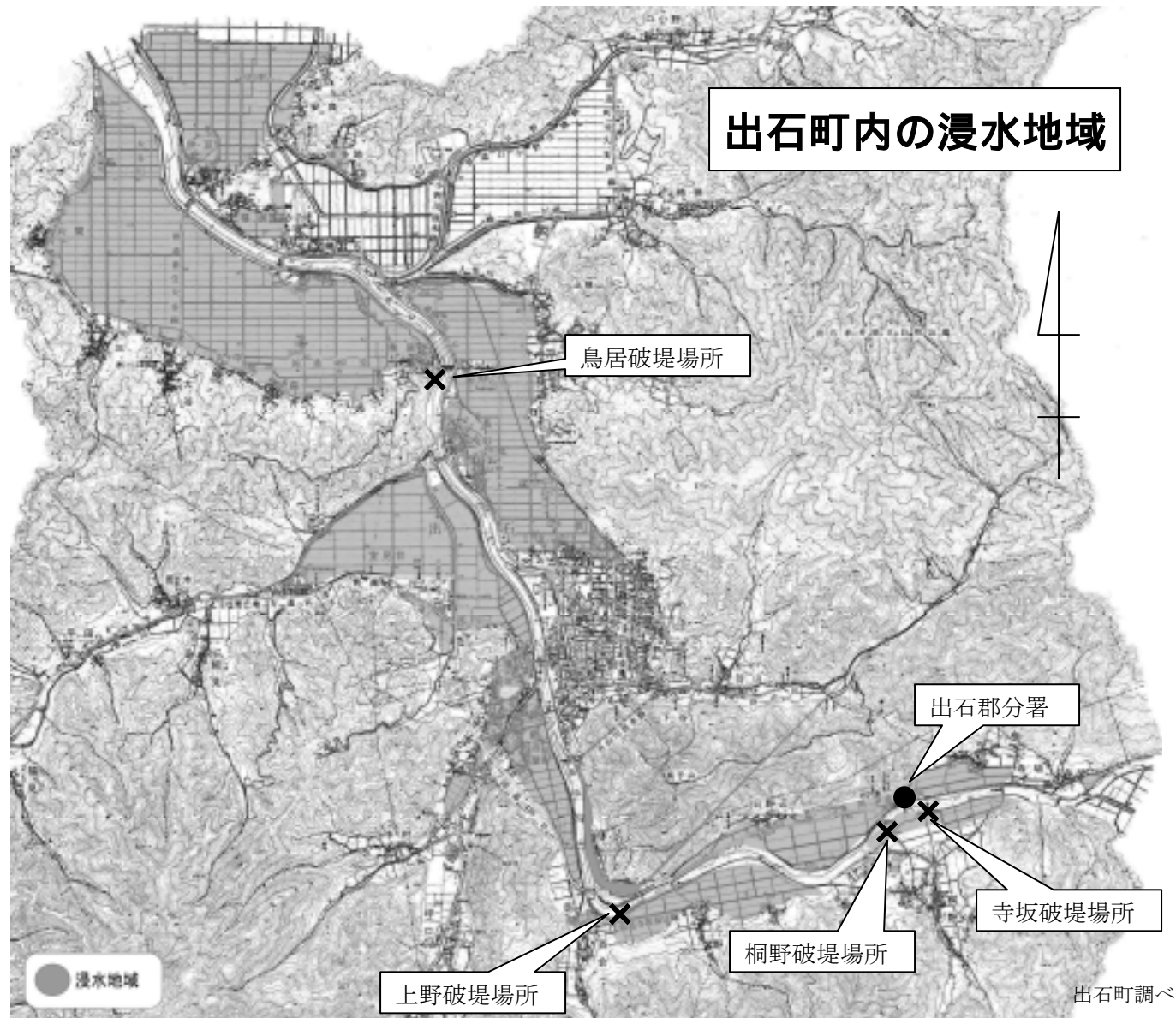
20日17時頃、出石郡分署のある出石町寺坂地区から下流の日野辺地区にかけて、出石川の堤防が3箇所破堤し付近の住宅をはじめ国道426号を走行中の車両が濁流に襲われ一帯が孤立した。庁舎近くで破堤し濁流の直撃を受けた出石郡分署は消防車両を退避させるとともに、国道426号上で濁流の中に取り残された人の救助活動に着手、付近の住民の避難誘導にあたったが、その後、共に6時間孤立することとなった。

孤立する中、鳥居地区の破堤の報を受けていた分署員は、21日1時頃、水位が低下し他の地区への出勤が可能になったことから、直に出石町鳥居の破堤現場に出勤し、自衛隊及び警察と協力して取り残された人々の救助を行った。小坂地区の避難場所である小坂小学校の一階部分が水没し約80人が孤立していた。

さらに但東町では、各地で土砂崩れや道路の崩落が相次ぎ通行不能により孤立する地区が多数発生。但東町内で発生する救急事案に出勤する際は、長距離の迂回を余儀なくされた。泥に覆われた道路を走行し続けた救急車のラジエーターに泥がつまりオーバーヒートにより立ち往生するトラブルに見舞われながらの活動となった。



出石川の破堤により壊滅的な被害を受けた鳥居地区 提供出石町



出石町調べ

## 出石町内の浸水地域

鳥居破堤場所

出石郡分署

寺坂破堤場所

桐野破堤場所

上野破堤場所

浸水地域

### 出石郡分署 藤原 和 弘

空が白んで行くにつれあらわにされる異様な光景に、我が目を疑った。自動車は、処構わず不自然な姿で幾重にも重なり合い、ついさっきまでそこにあった筈の道路が、バス停が・・・無い！国道426号は、寺坂地区で約100mにもわたって完全に崩落し、いたる場所で発生している土砂崩れのため、但東町方面への出動はいずれトンネル経由を余儀なくされた。

最も危惧していたことが現実のものとなった。但東町内での心肺停止患者の発生である。通常なら現場到着まで10分かからない距離に実に27分間を要した。1分1秒が生死を左右するとも言われる状況下で、このタイムロスは限りなく絶望を意味していた・・・。

また別の事案では、やっとの思いで現場到着したと同時に、救急車の下部から大量の白煙が噴き出した。度重なる出動で泥濘地を走行し続けた影響により、ラジエーターファンが作動しなくなっていたのだ・・・オーバーヒートである。

応援隊を呼ぼうにも、本部・通信指令室は機能しておらず無線に応答は無く、携帯電話は輻輳していて繋がらない。比較的病状は安定しているものの決して予断を許す状態ではなかったが、自家用車での搬送を依頼せざるを得なかった。苦渋の選択だった。

何れの場面でも叱責どころか、別れ際に家族は「こんな時に本当にすみませんでした。ありがとうございます。」と深々と頭を下げられた。私は、その度に「こんな時だからこそ、必要とされている筈なのに・・・自分は何らまともな活動すら出来ていないじゃないか！！」と、やり場の無い怒りと懺悔の念に苛まされるのだった。

今回の水害では、誰もが大自然の脅威の前に阿鼻叫喚し、なす術を失った。がしかし、今後同じ轍を踏む事無く、如何に今回の教訓を活かせるかが真価を問われる時だ。

勝負はこれからだ！いつかまた必ずや襲い来るであろう大災害にリベンジを誓った。

### 出石郡分署 狩野 一 道

「これ以上先はいけません。退き返して下さい。」出石川の増水により国道が通行止めとなり、出石郡分署の前は立ち往生する車で埋め尽くされた。そんな状況をあざ笑うかのように、さらに勢いを増す出石川の濁流は堤防を越え国道上へと流れ出てきた。堤防が決壊し庁舎が浸水する恐れが出てきたため消防車を桐野橋付近へ逃がすべく、私は同僚と車両に乗り込んだ。

寺坂小学校前の交差点を曲がろうとしたその時、濁流によって道路脇の田んぼへ流された単車にしがみついている男性の姿が我々の目に飛び込んできた。一刻の猶予も無いと判断し、とにかく直ぐ近くの安全な場所に車を止め、その男性の救助へ向かった。何とか男性にロープをかけ国道上へ引き上げた。すると次は国道上で動かなくなった車から女性1名が助けを求めている。2名を確保した我々は、避難所となっている寺坂小学校へ誘導しようと歩き始めたが、瞬く間に濁流は水位を増し、歩くことさえ困難な状況と変化していたのであった。とにかく無理に歩くことは危険だと判断し、少しでも流れの弱い道路脇へ2名を連れて避難した。その後、水位が下がり後続隊と合流し救助活動を再開するまでの約2時間、国道上は他にも多くの車から助けを求める声があり、その声に応えようと救助方法を模索し続けたのだが、信号機や電柱をなぎ倒し、車をおもちゃのように流してしまう濁流の前ではどうすることもできない状況であった。そんな中、我々に出来たことと言えば、不安と恐怖に怯えるよう救助者へ「大丈夫、絶対助かります。一緒に帰りましょう。」と励まし続けることだけだった。

この現場では、奇跡的にも1人の死者も出なかったことが唯一の救いである。しかし、自然の猛威に初めて恐怖を覚え、我々が如何に無力であるか身をもって痛感した。

### 出石郡分署 與田 十 芽 夫

昼過ぎから降り出した雨は強さを増し、午後5時頃、国道426号は冠水し出石郡分署は孤立した。23時頃、ようやく水位が下がり始め、目前の道路には流木等が散乱し災害規模の大きさを改めて実感した。

21日午前1時、先発隊が鳥居地区へ救助出場、無線にて道路通行可の連絡が入り、私はタンク車隊員として乗り込んだ。車両は国道の流木等を縫うように走る。鳥居橋を通過し下り坂を下りた所で車両は行く手を遮られた。鳥居橋上流の破堤によって鳥居地区内に激しく泥水が流れ込んでいる。暗闇の中、家屋の一階部分が水没、最悪な状況を目のあたりにして任務の遂行に不安を覚えた。先発隊と合流し救助方法を模索するが、激流の前でむなしく時間が過ぎていく。活動拠点を決定、ボートの到着。救助の第1優先を「逃げ遅れトラック屋根上の男性」とし、3名が乗船してボートを暗い水面に進めた。



孤立した小坂小学校 兵庫県消防防災航空隊撮影



孤立した小坂小学校で救助活動を行なう出石郡分署隊員 産経新聞社提供

濁流、浮遊物、水中の障害物など活動は困難を極めた。家々の2階窓から救助を求める声、さらに前方の救助を求める懐中電灯の光に心が揺れる。「後で必ず来ます。」と言い残しボートを進める。「こっちだ。この光を目印にボートを進めてくれ。あの人を助けて。」悲鳴にも似た声と光を確認する。隊長の「発見！」の声。見ると両手で丸太を抱えうなだれた男性がいた。急いでボートに収容する。水没したトラックと身体をロープで結び、流れてきた発泡スチロールを上着の中に入れ、生きるという強い気持ちで長時間耐えた男性は限界だったのだろう。「もう大丈夫ですよ」と声をかけると一瞬表情が和らいだ。

自然の猛威の中、痛切に感じた無力感。しかし、この災害を経験し我々の得たものも大きい。



## 日高分署

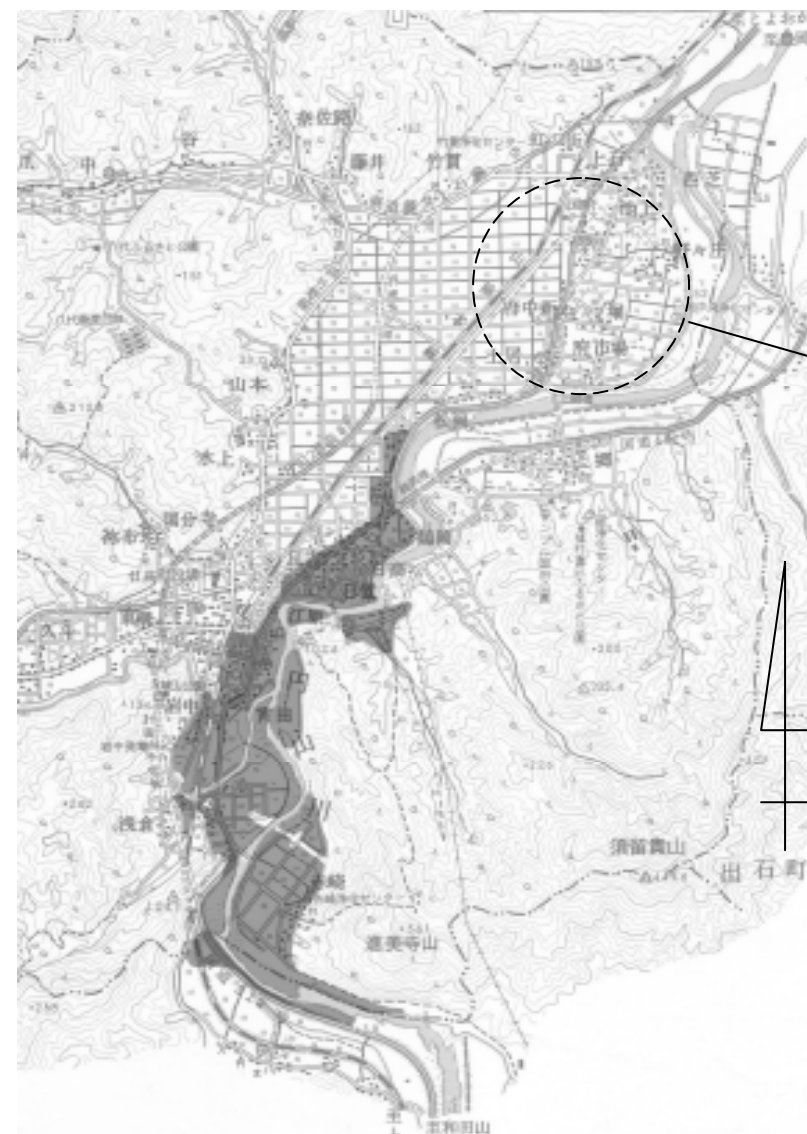
日高分署が管轄する日高町では、20日16時頃に浅倉及び赤崎地区で氾濫した円山川と稲葉川の濁流により付近の道路が冠水し多くの通行車両が巻き込まれた。日高分署から消防隊1隊が救助に向かい十数人を救助したものの、急激な増水により退路を断たれ付近の事業所建物に避難した後に孤立、日高分署と日高町消防団の消防車が水没した。直ちに日高分署と豊岡消防署から救助に向かったが、水深約5mの濁流に阻まれ接近できず、夜間の救助活動は二次災害の恐れがあるとして救出を断念せざるを得なかった。携帯電話で孤立した隊員と連絡を取り、同日深夜の水位の低下を待っての救出となった。同日18時には、赤崎水位観測所の水位が8mを超え、江原、日置、鶴岡、宵田、岩中、赤崎、浅倉区が浸水した。また、町北部では、八代川の氾濫と内水の増加により西芝、上石、虹の街等の国府地区が浸水し豊岡市間の主要道路が通行不能となった。同日22時頃から町南部では水位が下がり始めたものの、国府地区では八代川などからの増水が続き、翌21日午後まで冠水が続いた。

日高分署は、管轄区域内で発生する救急事案に対応したほか、他町からヘリコプターで搬送されてくる傷病者を公立日高病院に中継搬送した。さらに県下及び緊急消防援助隊を受け入れる際には、日高分署があさご消防本部と連絡を取り、応援隊を八鹿町から出石町経由で豊岡市へ誘導する活動を行った。



濁流で破壊された民家（赤崎） 日高町提供

国府地区付近の状況 国土交通省撮影



## 日高町内の浸水地域

日高町内の浸水地域は、左図に示す場所のほか、町北部の国府地区においても浸水した。

● 浸水域

日高町調べ

### 日高分署 佐藤 誠

前日5時頃より降りだした雨は、20日13時過ぎには猛烈な豪雨に変わり、普段は、かすかな流れしかない自宅横の水路も、その日に限って茶褐色の水が音をたて勢いよく流れていた。このまま降り続けば非常召集されるに違いないと思い、非常食を鞆に詰め込み自宅待機していた。15時43分、「日高町内の職員は直ちに来てほしい」との連絡が入り自家用車で日高分署に向かう間も、雨の勢いは増すばかりであった。車を走らせながら水路等を確認するが、氾濫箇所はどこにも認められなかった。

16時15分日高町赤崎地内の冠水したふるさと農道上で車両1台が動けなくなり、運転手1名が閉じ込められていたものの、自力で脱出したとの情報が入り、冠水調査のため現場に向った。浅倉交差点に到着し、しばらくたった16時37分、赤崎橋を越えて交差点側に向かってくる軽自動車を発見、両手を振って静止するが、私に気付くことなく冠水した道路に進入してしまった。たちまち車は動けなくなり、運転手の男性が慌てて窓から車外に脱出したものの、瞬間に濁流にのまれてしまった。隊長に状況を伝え、ライフジャケットを装着していた別の隊員とともに男性を追い発見に務めるが、周り

はすでに薄暗いうえに水は濁り、なかなか発見できなかった。私の20m下流で、浮き沈みする男性の頭がかすかに確認できた。その旨を隊員に伝え、男性から視線を離すことなく下流方向に2人同時に走り出したものの、目の前には高さ2mのフェンスが立ちはだかっていた。順番にフェンスを乗り越え、先に乗り越えた隊員が男性に向かって「木につかまれ」と大きな声で叫んだ。その声が届いたのか、その男性は目の前の柳の木に必死にしがみ付いた。携行していた50mロープを解き一端を身体に結着した隊員が濁流に飛び込む。自分ももう一端を近くの焼却炉の扉に結着し確保を行った。川の流力が強く、隊員はなかなか思うように男性の元にたどり着く事ができず、私は焦る気持ちを押しさえつつ、見守るしかなかった。やっとの事で男性の元に泳ぎ着き救出しようとするも、強すぎる濁流により男性は木から離れる事ができなかった。そんな男性を隊員は勇気づけ、体ごとつかみ確保した後、「救出始め」の合図を送ってきた。後着した消防団員2名の協力を得て、ロープをたぐり寄せ2名を無事に引っ張り上げ救出が完了した。



## 城崎分署

城崎分署が管轄する城崎町では、円山川の増水により円山川沿いの住宅が浸水し救助要請が相次いだほか、避難住民を避難所まで搬送する活動を行った。また、内水の増水による浸水被害に対して排水作業等の水防活動を行った。特に、城崎町内を流れる大谿川では、排水機場の吸水口フェンスに流木等がつまり排水能力が低下、内水の増水による被害拡大のおそれがあるとして、隊員がフェンスにつまった流木等を手作業で撤去する活動を行った。

一方、円山川河口付近の豊岡市港地区でも浸水被害が拡大した。城崎分署から同地区へ通じる主要道路が冠水により寸断された。

結和橋西詰め付近の冠水状況

当本部撮影

### 城崎分署 土生田 雅 樹

雨、風のピークが過ぎた22時頃、災害対策本部から1本の電話があった。「町内の排水を実施しているが、大谿川ポンプ場の排水ポンプに多量のゴミ、雑木が付着し、排水の障害となっている。危険な作業ですがゴミの撤去作業をお願いしたい。」と要請があった。町の浸水を防ぐためポンプ車に5名乗車し現場へ向かった。大谿川の濁流は高速道路のような勢いで流れ、また、町内の道路はいたるところで冠水し、私たちの行く手を阻んだ。

迂回を余儀なくされながらも到着し、ポンプ場から月明かりに照らされた円山川を見ると、普段の穏やかなさまとは違って変わってはるか先のほうまで水に覆われ、大きな音をたてて流れていた。排水ポンプ付近は聞いていたとおり、おびただしい量のゴミや雑木が激流とともにポンプ吸水口の金網に付着し、排水を妨げていた。

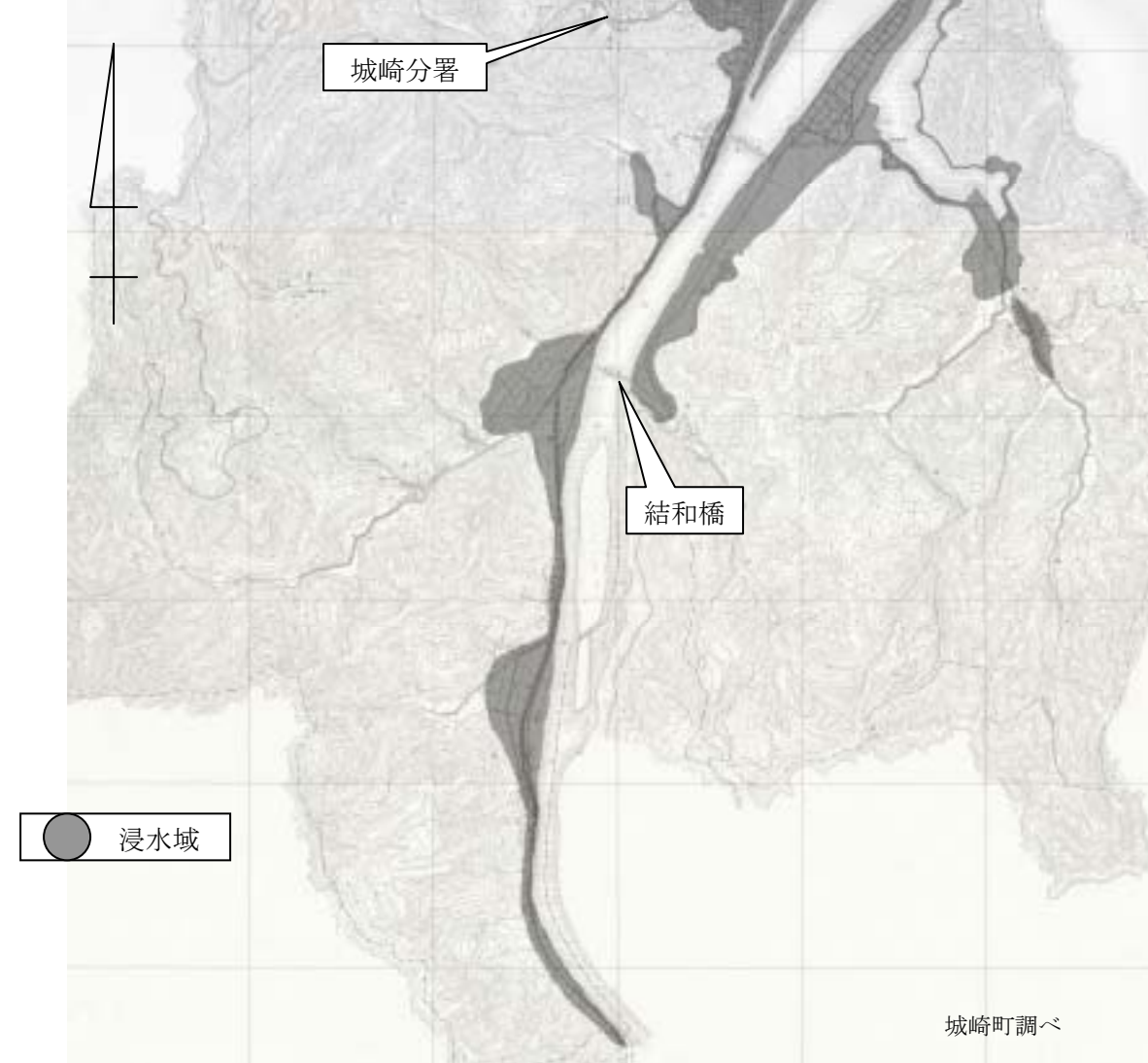
命綱をとり、吊り下げられたような格好で金網に沿って水面まで降り、金網に付着しているゴミの回収作業を開始した。作業はゴミを水面から上に上げる単純なもの、しかし、

濁流は身体を吸い込みそうな勢いでポンプに流れ込んでいく中、次々と金網に集積するゴミに長丁場を覚悟した。懐中電灯の明かりを頼りに、懸命に次々とゴミを撤去する。中には1人で持ち上げられないほどの倒木や中身の入ったポリタンクなどもあった。想像以上のゴミの量と大きさに、私の身体も悲鳴を上げ、今回の災害規模を認識させられた。

作業開始から一時間半、水面が低くなったような気がしたため、上流側を見ると一面を覆っていたゴミがまばらになっていた。回収作業を続ける中、しばらくすると吸水能力が回復したため、町内の水位の低下を期待して現場を後にした。依然、大谿川は激流と濁流が重なり合っているものの、迂回を余儀なくされた道路が目の前に現れていた。予想以上の成果にこぶしを握りしめた。

この日は、何人もの人を避難所へ搬送する救助活動を実施したが、これらの救助活動とはまた違った充実感を覚えた。それは「消防職員として」だけではなく、「城崎を愛するひとり」として、復興への第一歩をアシストできたことだった。

## 城崎町内の浸水地域



## 竹野出張所

竹野出張所が管轄する竹野町は、当本部管内では唯一円山川水系に属さない地域であるが、町内を流れる竹野川の増水により道路の損壊や道路冠水、住宅等の浸水被害に見舞われた。出張所は、パトロール等に当たったが、幸いにも救助活動に至る状況や人的被害は発生しなかった。管内の状況が落ち着いた21日、隊員7名が豊岡消防署へ応援出動し活動を行った。



竹野川の増水により崩落した道路（竹野町森本）竹野町提供

# 応援求む！

相次ぐ破堤、停電、殺到する119・・・  
消防力を超えた災害。当本部は、21日01時30分、神戸市消防局及び兵庫県に対して応援要請を行った。これに対して、県下28消防本部及び近隣府県の27消防本部から100隊の応援を受け救助活動を行った。



あさご消防本部に集結した兵庫県隊 明石市消防本部撮影



あさご消防本部で状況の確認を行う応援隊



豊岡市立野破堤現場で逃げ遅れた7名を救助する兵庫県消防防災航空隊。以後、同機と神戸市、大阪市両消防局のヘリコプター3機が孤立地区の救助や救急搬送にあたった。

当本部撮影

応援隊の派遣決定を受け、当本部は応援隊の投入地域の選定を行った。出石町では自衛隊や警察への応援要請が行われ、日高町では、応援の必要なしとのことから、豊岡市内への投入を決定した。

## 応援隊の活動 21日

- 01時40分 神戸市消防局派遣決定
- 02時40分 神戸市消防局先遣隊出動
- 06時00分 兵庫県隊27隊があさご消防本部に集結。後方支援隊出動
- 06時36分 兵庫県消防防災ヘリコプター出動
- 07時22分 兵庫県消防防災ヘリコプターが立野の逃げ遅れ7名の救助開始
- 46分 兵庫県隊27隊が豊岡市立野大橋東詰に到着し活動を開始
- 08時20分 兵庫県に緊急消防援助隊要請
- 27分 神戸市消防局ヘリコプター出動
- 30分 兵庫県から総務省消防庁へ緊急援助隊要請
- 35分 兵庫県隊が、現場指揮本部を立野大橋東詰に設置し活動開始。総務省消防庁が大阪府に緊急消防援助隊要請
- 09時05分 総務省消防庁から名古屋市消防局へ消防庁職員のヘリコプター搬送要請

- 30分 大阪府隊指揮支援隊が大阪市消防局ヘリコプターにより八尾空港を出発
- 50分 緊急消防援助隊第2要請
- 10時00分 大阪府隊25隊出動。総務省消防庁が岡山県に出動要請
- 05分 岡山県が県下代表消防本部の岡山市消防局に出動要請
- 15分 兵庫県隊救急隊11隊増援要請
- 30分 岡山県隊15隊派遣決定
- 50分 総務省消防庁が滋賀県に出動要請
- 55分 滋賀県隊9隊派遣決定
- 11時00分 兵庫県隊西播隊交代要員29名出動
- 40分 大阪府隊長到着
- 12時00分 岡山市消防局隊出動
- 08分 県隊の後方支援隊が到着
- 10分 岡山県隊12隊が集結場所に出発
- 15分 大阪府隊の指揮支援隊が到着
- 55分 滋賀県隊第1陣7隊が出発
- 13時00分 大阪府隊後方支援隊が出発
- 15分 総務省消防庁職員が名古屋駅到着
- 45分 岡山県隊出動。名古屋市消防局ヘリコプターへ出動指令
- 55分 滋賀県隊第2陣出動
- 14時05分 兵庫県隊交代要員到着
- 40分 大阪府隊現場指揮本部設置。豊岡市今森、江本地区の救助活動開始
- 15時30分 総務省消防庁職員が、名古屋市消防局ヘリコプターで但馬コウノトリ空港到着
- 16時25分 大阪府隊の後方支援隊、府隊本部到着
- 30分 兵庫県隊第1陣現場引揚げ
- 17時10分 神戸市消防局第1陣現場引揚げ
- 45分 岡山県隊が到着
- 47分 滋賀県隊が到着
- 55分 大阪府隊の後方支援隊が豊岡市災害対策本部で衛星電話開通作業開始
- 18時00分 兵庫県隊救助活動中断
- 23時10分 大阪府隊救助活動中断

## 応援隊の活動 22日

- 03時40分 岡山県隊支援隊活動開始
- 05時18分 滋賀県隊立野大橋到着
- 30分 兵庫県隊が豊岡市梶原・庄境地区の救助活動開始
- 47分 大阪府隊、豊岡市江本・今森地区の救助活動開始
- 06時15分 岡山県隊が豊岡市江本の円山大橋東詰に指揮所を開設し、豊岡市八社宮地区の救助、避難確認作業、情報収集を開始



豊岡市立野大橋東詰を拠点として救助活動が展開された 西宮市消防局撮影



活動終了後、野営場所である豊岡市民体育館で翌日の活動内容を確認する応援隊の隊長 大阪市消防局撮影



江本・今森地区の指揮本部で情報及び活動区域等の確認を行う 大阪府隊の隊長 大阪市消防局撮影

- 07時00分 滋賀県隊、梶原・庄境地区に現場本部設置
- 15分 滋賀県隊、梶原・庄境地区に前線指揮所を設置し、同20分救助活動を開始。
- 09時35分 大阪府隊、豊岡市野田地区の救助活動開始
- 45分 岡山県隊、豊岡市下陰地区の検索活動を開始
- 10時10分 兵庫県隊、梶原地区の活動を終了。福田地区へ転戦し安否確認作業開始。
- 11時15分 大阪府隊、全隊活動終了
- 55分 滋賀県隊、豊岡市栴江地区調査開始
- 13時37分 緊急消防援助隊・兵庫県隊引揚げ決定
- 14時00分 豊岡市立総合体育館前で解散式
- 30分 兵庫県隊引揚げ
- 40分 大阪、滋賀、岡山各隊引揚げ
- 15時10分 神戸隊引揚げ



救助される住民 大阪市消防局撮影



→ 豊岡市総合体育館前で解散式を行う県下消防本部  
 応援隊と緊急消防援助隊 大阪市消防局撮影

### 豊岡消防署 小崎富士夫

「県下消防応援隊は、あさご消防本部に集結完了。豊岡市へは午前7時に到着予定。円山大橋東詰にて合流し、被災地への誘導を願う。」日高分署の先導隊からの連絡を受け、私は合流地点へ向かった。階下に降りると玄関ロビーは一面の水。膝上までの水が長靴に入り込む。車庫、道路と進むにつれ水深は増し、腰のあたりまで浸かる。昨夜は、消防署前の道路は川と化し、何台もの車が浮いて北に流れていった。なかなか前へ進めない。水の入り込んだショーウィンドウ、ホーンが鳴りつばなしの水没車両。やっとの思いで円山大橋に到着した。橋の下は、堤防から堤防まで川幅をいっぱいに拡げた濁流。橋の先の右岸六方平野は泥の海。振り返った左岸の市街地も家々が水に浸かり、道路さえ判別できない。あたり一面水、水、水である。両岸の堤防上の国道だけが濁った水の中に細々とある。

やがて、出石方面の国道上に赤色回転灯の長い長い列が近づいて来る。報道によって但馬の被災を知り、応援要請を受けて連絡を取り合いながら県下の各消防本部から夜を徹して集まり駆けつけてくれた県下消防応援隊である。車列が近づくと胸の奥から熱いものがこみ上げる。

「県下応援隊を案内しました。」「了解。交代します。」日

高分署隊より先導を引き継ぎ立野の破堤現場へ向かった。途中、市民会館前の国道が冠水により通行不能のため、ルートを変更し、警察の許可を得て豊田商店街の一方通行を逆走して進む。先導車両から降りて走りながら、通行中の車や自転車を脇道へ誘導する。「おおすごい！」「あつ、消防隊だ！救助隊だ！」「何台続くんぞ！何十台も来たぞ！」道路沿いの人々から驚きの声がかかる。『ああ、豊岡の人たちも感動して応援隊を迎えてくれている。よかった。』

豊岡病院前の道路も完全に水没し、ボートで行き来している。坂道を上り立野大橋に出る。破堤した現場が見える。本流から洪水が流れ込んでいる現場に到着した。

「被災者が多すぎる。さらに緊急消防援助隊を要請する。」

「各隊は、ボートを準備し活動開始せよ。今日は、日没まで救助活動を実施する。」神戸市消防局の指揮隊長の指示が飛ぶ。救助隊により次々と被災者が救出され、待つ人々と笑顔で抱き合っている。翌日の正午までに全員の救出を完了した。

今回の台風で我々の地域は大打撃を受けた。しかし、応援隊の活動を目の当たりにして感激とともに多くのことを学ばせていただいた。また、同じ消防職員であることを誇りに思った。心より感謝し、いつかまた恩返しをしたい。

### 応援消防局・本部等数

応援隊別消防局・本部数	部隊数	隊員数	ボート	ヘリコプター
総務省消防庁	1	—	4	
兵庫県下消防応援隊	28	54	161	2
緊急消防援助隊	27	70	284	2
合計	56	124	449	4

### 兵庫県下応援隊及び緊急消防援助隊活動状況

活動日	府県名	航空部隊	指揮隊	救助隊	救急隊	後方支援隊	隊合計	人員数計	ボート数	出動本部数	救出人員	戸別調査数
21	兵庫	2	5	9	8	5	29	124	18	23	534	2, 266世帯
	大阪	1	2	25	3	13	44	153	23	10	50	
	岡山		1	10		1	12	59	10	6		
	滋賀		2	9		2	13	68	9	10		
	愛知	1					1	4		1		
計		4	10	53	11	21	99	408	60	50	584	
22	兵庫	2	6	9	8	5	30	128	18	23	23	1, 023世帯
	大阪	1	2	25	3	13	44	153	23	10	8	1, 031世帯
	岡山		1	10		1	12	59	10	6		大阪隊と協力
	滋賀		2	9		2	13	68	9	10		県隊と協力
計		3	11	53	11	21	99	408	60	49	31	

### 豊岡消防署 岸本喜朗

21日正午、宝塚市消防本部の救助隊と共に、豊岡市一日市と船町付近の救助に向かった。

一日市の急病人をボートで救出後、船町方面へボートを進めた。普段は、車の往来が多くにぎやかな国道178号は約1m冠水し、低地は水深約1.5m、一日市の田んぼは泥の海と化していた。不気味なほどに静かな町に向かって「救助に来ました。病人やけが人はおられませんか」と叫ぶと、あちらこちらの建物で百数十人の人々が手を振り出した。我々だけで救助できる人数ではない。前夜から情報をまったく得ていない人々の不安と疲労はピークだった。一軒一軒を回り、救助は病人やけが人を優先すること、市内の8割が浸水し避難所の多くも被災していること、天候の回復により差し迫った危険はないこと、水と食料があるならばとどまる方

が安全であることなどを説明した。半数の人は、情報を得たことで落ち着かれ、その場にとどまることとなった。

福田地区での救助活動を終えた三田市消防本部救助隊と合流し、日没までに2艇のボートで約60名を救助した。ほとんどの人は、付近を走行中に急激な増水に追われ、近くの事業所の建物に逃げ込んだ人や店舗の従業員だった。

また、我々と同様一日市自警団の方がボートで多くの人々を救出された筈であるが、とうとう確認もお礼も申し上げられないままである。

当日入りされた直後より、不休で献身的に活動していただいた、宝塚、三田両市消防本部救助隊の皆様にご心から感謝申し上げます。

兵庫県下応援消防局・本部一覧

地区	消防局・本部名	部隊数	隊員数	
兵庫県消防防災航空隊		1	6	
神戸地区	神戸市消防局	9	28	
阪神地区	尼崎市消防局	2	7	
	西宮市消防局	2	7	
	芦屋市消防本部	2	5	
	伊丹市消防局	2	6	
	宝塚市消防本部	2	5	
	川西市消防本部	2	5	
	三田市消防本部	2	3	
	篠山市消防本部	1	4	
	氷上広域消防本部	1	4	
	猪名川町消防本部	1	4	
	東播地区	明石市消防本部	2	7
		加古川市消防本部	2	5
		加西市消防本部	1	3
三木市消防本部		1	3	
高砂市消防本部		1	3	
加東行政事務組合消防本部		2	5	
西播地区		姫路市消防局	3	9
	相生市消防本部	1	3	
	龍野市消防本部	1	5	
	赤穂市消防本部	1	4	
	中播消防事務組合消防本部	1	4	
	宍粟広域消防事務組合消防本部	1	3	
	揖南広域消防事務組合消防本部	1	3	
但馬地区	あさご消防本部	5	11	
	養父市消防本部	3	6	
	美方広域消防事務組合消防本部	1	3	
合計	28	54	161	

平成17年1月以降に、市町合併等により消防本部名が変更となった消防本部については、平成16年10月20日現在の名称で記載しています。

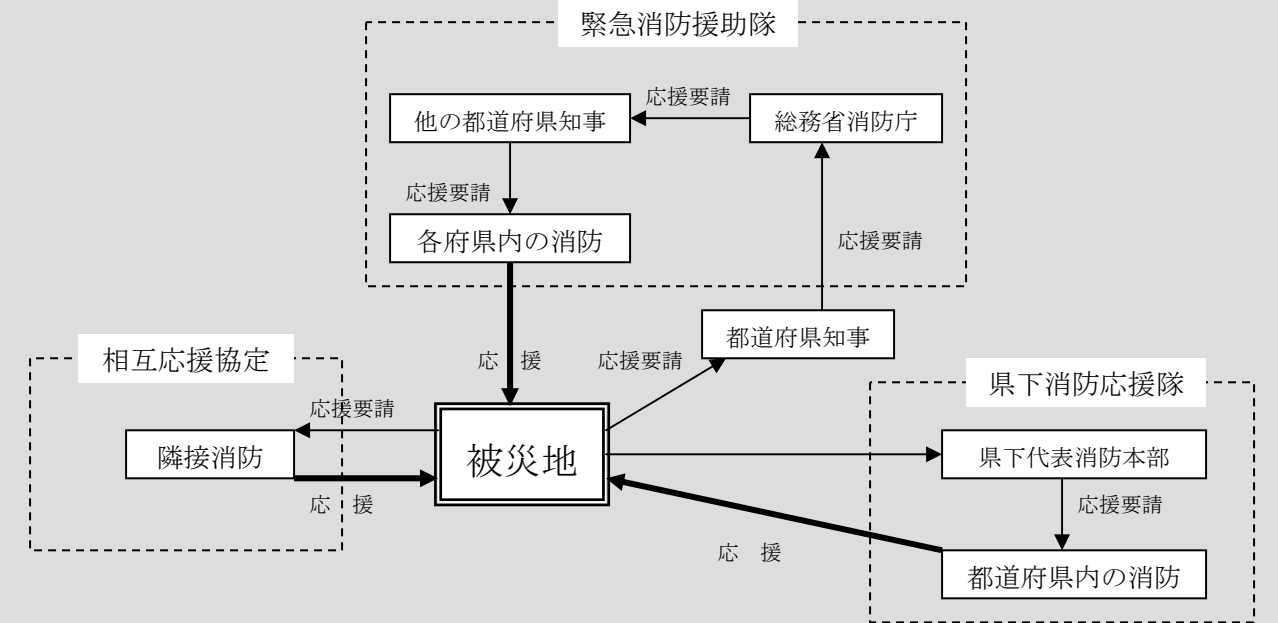
緊急消防援助隊消防局・本部一覧

府県及び消防局・本部名	部隊数	隊員数	
大阪府	大阪市消防局	21	69
	堺市高石市消防組合	7	24
	枚方寝屋川消防組合	4	16
	豊中市消防本部	3	10
	守口市門真市消防組合消防本部	2	7
	吹田市消防本部	1	5
	高槻市消防本部	2	5
	柏原羽曳野藤井寺消防組合消防本部	2	8
	岸和田市消防本部	1	4
	茨木市消防本部	1	5
小計	10	44	153
滋賀県	大津市消防局	3	11
	湖南広域行政組合消防本部	1	10
	甲賀広域行政組合消防本部	1	7
	東近江行政組合消防本部	3	11
	彦根市消防本部	1	7
	坂田郡消防本部	1	5
	長浜市消防本部	1	7
	東浅井郡消防本部	1	5
	伊香郡消防組合消防本部	1	5
	湖西広域消防本部	1	5
小計	10	13	68
岡山県	岡山市消防局	6	30
	倉敷市消防局	2	11
	津山圏域消防組合消防本部	1	3
	笠岡地区消防組合消防本部	1	5
	総社市消防本部	1	5
	高梁市消防本部	1	5
小計	6	12	59
愛知県	名古屋市消防局	1	4
小計	1	1	4
合計	27	70	284

消防応援のしくみ

消防局・本部は、市町村を単位とする自治体に設けられています。大規模災害の発生時等に、その自治体の消防単独で対応できない事態となったとき、自治体の長は、隣接する自治体消防や都道府県の代表消防本部に対して他の自治体消防の応援を要請することができます。また、県下の消防応援で不足する場合、知事は、総務省消防庁を通して近隣府県に応援要請を行うことができます。

このようなしくみは、阪神淡路大震災を契機に設けられました。平成16年7月18日、福井県で発生した水害に緊急消防援助隊として当本部は救助隊1隊5名を派遣しました。



県立日高高校のグラウンドに着陸し、日高分署救急隊に傷病者を引き継ぐ兵庫県消防防災航空隊 当本部撮影

豊岡市南東部の中筋、神美地区は、市街地からの道路が水没し孤立した。遠距離であるため救助・救急要請にはヘリコプターが出動した。

↓豊岡市鉢山付近の浸水状況 岡本邦夫さん撮影



# 消防庁長官が被災現場の視察

平成17年1月31日、総務省消防庁から林長官が豊岡市を訪れ、消防本部にて被害と活動等の説明を受けた後、被災現場の視察を行いました。

来庁あいさつ

消防庁長官 林 省 吾

出来るだけ早くお見舞いし激励をさせて頂きたいと思っていましたがご承知のように台風23号の後、新潟での地震さらには、年末年始もインド洋の津波対策と消防庁も多忙を極め、大変遅くなった事をまず、お詫びをいたします。何よりも皆様方大変な災害に遭遇され、被害に遭われた方も多かったと思います。心からお見舞いを申し上げます。

しかしながら、その中で皆様方大変献身的な活動をしていただきました事をお聞きし心から喜び、皆様方の行動に対して敬意を表すところであります。我々消防関係者の使命は、地域の安全を守り市民の安心を確保するために何が出来るか？これが任務でありますけれども、台風23号に際して当地域皆様方、精一杯の活躍をして地域の皆様の期待に応えて下さったこと私自身喜んでおります。昨年は色々な災害が相次いだわけですが、当地に参りました先遣隊の職員、緊急消防援助隊の職員から市長さん消防長さんの指揮のもとに、的確に災害に対応されたと聞き、消防庁でも皆さん方の活動を評価いたしておるところでございます。

しかしながら、先ほど市長さんからお話をお聞きしましたが、災害に完璧な対応はないわけです。今後の災害に対する教訓も沢山あることと思います。それを糧として今後の災害対応をしていただきたいというのが私の率直な気持ちであります。

正直言いまして災害は避けることが出来ないと思います、必ずやってくると思います。昨年災害が多かったから今年は大丈夫という事もないわけでありまして。私の感じる所、世界的にも災害が多発するような時代に入ったのではないかと感じております。そのような認識の元で市民の期待に応え、そうするためには何が必要か警視庁、消防庁を中心として考えていかなければならないと思うところがございます。

昨年様々な災害に対応して思う事ではありますが、私ども消防庁も含めて今の体制で何が出来るかということだけでは十分ではないと思っています。昨年の災害も想像を絶した雨量であり風であり地震であったわけではありますが、そういうものが今後とも来るという前提に立ってその時に我々が何をしなければならないかを是非考えていただきたい。今の体制で精一杯やれば良い。これでは駄目で市民の期待に応えられないと思います。

想像を超えるような災害に遭遇した場合に、我々は何をしなければならないのか是非想像力を働かせて考えていただき、そのために必要ならば今の体制を変える、あるいは充実する、足りないものは補完する、こういうシミュレーションを是非やっていただきたいと思っています。

大変な経験をなさったわけですが、それを今後の糧として市民の安全安心を守っていただき一層ご活躍されますよう私どもからもお願いを申し上げます。皆様の感謝の言葉とさせていただきます。



豊岡市立野町の破堤現場で、被害状況の説明を受ける林長官（写真中央）

# 指揮者として

## 災害は過去を上回るもの

消防長（当時）津禰鹿 孝 信

台風23号は、「昭和34年の伊勢湾台風」「平成2年の台風19号」における円山川水位を短時間で更新し、尊い7名の命を奪い管内各地に甚大な被害をもたらしました。まずもって、ご遺族の方々と被害に遭われました皆様に心からお見舞い申し上げます。

かつてない大水害により、本部庁舎そのものが1mを超える浸水により孤立するという、これまでに経験したことの無い悪条件下での活動となりました。消防車両を高台へ避難させようとしたものの、急激な浸水により本部及び豊岡消防署に配備していた車両14台のうち6台が水没、さらには日高分署配備の水槽付消防ポンプ自動車1台が救助活動中に水没し使用不能となってしまいました。そのような中で救助要請を受け、出動する隊員にあっては胸まで水に浸かり、避難していた車両へ移動しなければならず、また、管内のいたるところで土砂崩れや冠水により道路が寸断され、目的地へ到達することが出来ず、出来ても迂回するなど、相当の時間を要することとなりました。また、情報通信量が大量であり、電話回線が飽和状態になり先方と繋がらない状況となっていた事、無線においても、統制を図るものの同様でした。追い討ちをかけたのは停電であります。自家発電装置も浸水により停止、非常用バッテリーも長時間の被災の前では無力でありました。携帯電話の充電すらできない状況は、通信指令システムにとって致命的なものでした。夜間の救助活動がほとんどであったことから、どうしても昼間の活動に比べて不自由な中での活動となり、消防人としての隊員の心情を推察するに、思い通りの活動が出来ず歯がゆい思いに駆られるものであったと思います。

この度の活動に対して全面的に支援いただいた兵庫県下応援隊、大阪、岡山、滋賀、愛知各府県隊、さらには自衛隊の関係機関に対して、心より感謝とお礼を申し上げます。各隊とも連携しながら、22日午後2時に任務を終え解散していただきましたが、2日間で実に615名を救出していただくとともに、4,320世帯の個別調査で行方不明者ゼロを確認していただきました。あらためて消防人の仲間意識のありがたみを痛感せずにはおられませんでした。

この度の災害の中で、今後改善すべきこととして①自家発電設備の浸水対策②災害対策本部等の関係機関とのホットライン確保③大量情報処理に対応できる情報受信メモ等の整備④新市で支所単位で災害対策本部を設置する場合の消防署所との連携等があると感じております。そして、災害は、「過去に経験した記録や記憶の延長で想定しがちであるが、決してそうではなく、過去を上回る危険を常にはらむものである。」と肝に銘じたいと思います。



活動中の大阪市消防局ヘリコプター

野仲孝信さん撮影

## 復興は、防災の備えから

豊岡消防署長（当時） 秋 和 光 男

平成16年10月20日、かつてない大水害が発生、当本部管内1市5町で7人の尊い命が失われ、多くの家屋が損壊や浸水などの被害を受けました。ご遺族の方々と被害に遭われました皆様に心からお見舞い申し上げます。

10月20日の正午過ぎから午後8時までに集中して円山川流域に降った大量の雨は、95に及ぶ支流から本流へ一斉に流れ込み、午後11時15分、豊岡市内において円山川が破堤、さらに支流の出石川においても破堤が相次ぎ管内各地に被害が連鎖しました。消防署が最初に災害出動したのは午後4時10分、日高町において「乗用車が川に流された。」という救助の要請です。この後、道路の冠水で自動車に取り残された人や家屋の浸水によって孤立した人など、救助や救急事案が重なって発生、特に20日の夕刻から22日の朝にかけての出動が多いものとなりました。本流水位の急速な上昇によって内水が増えやがて消防本部庁舎も浸水し停電、消防車両や情報通信等に被害を受けるところとなりました。また出石郡分署では、すぐ上流の出石川堤防の破堤によって激流の直撃を受けました。混乱する情報通信と長時間の現場活動は、自身のジレンマや体力消耗など、職員へのダメージが非常に大きいものでありました。内水の上昇に加えてこの決壊が追い討ちとなり、当地域における消防防災力の限界を超すと判断、消防相互応援協定に基づく応援要請、更には緊急消防援助隊の要請を行ったのであります。兵庫県応援部隊は深夜に移動、20日早朝に到着し早速活動を始めました。本来私共がしなければならない災害活動を懸命に行っていたいただき、短時間に多くの人を救出していただきましたことに心より感謝申し上げます。

今回の災害を通じ消防署として ①救助用ボートなど資機材の確保、②道路冠水や土砂崩れ時のルート確保、③対策本部との連携、④消防部隊受援時の体制の確立等多くの課題があります。今後、体制の整備や事前準備を十分に行い、また防災訓練などを通じて効率的な活動を目指さねばなりません。

4月1日市町合併により新豊岡市がスタートします。これまでの管轄区域（1市5町）がそのまま豊岡市となり、これまで6市町がそれぞれ計画していた防災対策を今後はひとつの区域として防災を考えることとなります。市も消防も住民も、全域の災害情報を共有して全市あげて災害対応することが重要と考えます。

わが町の復興は、まず防災の備えからです。

津禰鹿、秋和両氏は、平成17年3月31日をもって定年退職されました。



帰路に着く緊急消防援助隊 野仲孝信さん撮影

# 消防年報

## 2004 活動の記録 資料編

火 災	市町別火災発生状況・・・・・・・・・・	4 4
	月別火災発生状況	
	火災の原因	
救 急	救急出場の推移・・・・・・・・・・	4 5
	地域別出場件数	
	傷病程度別件数	
救 助	救助出動の推移・・・・・・・・・・	4 6
	事故種別別出動件数	
	地域別出動件数	
指 令	災害による受信状況・・・・・・・・・・	4 7
	119番着信状況	
	携帯電話からの119番通報	
組 織	消防本部・・・・・・・・・・	4 8
	職 員	
消防力	消防力の基準と現有消防力・・・・・・・・	4 9
予 防	防火対象物と消防用設備等の設置状況・・	5 0
	地域別防火対象物・・・・・・・・・・	5 1
	地域別中高層建築物	
危険物	危険物製造所等の施設・・・・・・・・・・	5 2
	類別にみる貯蔵、取扱数量	
車 両	・・・・・・・・・・	5 3
消防団	消防団の現勢・・・・・・・・・・	5 4
活 動	各署・出張所別活動状況・・・・・・・・	5 5